





# 心の糧

第10代大管長

ジョセフ・フィールディング・スミス

も く じ

延引は、福音の原則に照らし合わせたときには永遠の生命を失うことになる。その永遠の生命とは天父と御子のみ前で生活することである。我々の中には、教会員であっても、福音の原則に従い、戒めを守ることに迅速さを必要としていないかのように感じている人がいる。

悪い習慣には容易に陥りやすいものであるが、それを捨てることはなかなかむずかしい。悪い習慣をほんのささいなことであり、墓に横たわる時には取り除かれるであろうと考えて、それに屈服している人はいないだろうか。我々は、肉体が墓の中で清められ、復活によって、完全な清められた体でよみがえるということを望んでいるのではないだろうか。我々の中には、そのような教えを説く者がいる。彼らは墓の中で清められることを述べて、自らの行動を正当化している。

アルマはきわめて異なった教義を教えている。彼はコリアントンに次のように言っている。「お前は、もはや回復に関することを教わっているから、このまま自分の罪深い境涯から幸福な境涯に回復されると思ってはならない。罪悪は決して幸福を生じたことはない。

お前から出るものはお前にかえる。それであるから回復と言う言葉はかえって罪人をますます罪があるとして少しもこれに寛く当ることはない。」(アルマ41：10, 15)

次に述べるアルマの言葉を常に心に留めておくべきである。

「現世は、人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は、人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である。」(アルマ34：32)

主は常に慈悲深く、思いやりのあるお方である。我々が主に近く生活する時、主は我々をみそばに引き寄せられるのである。「……熱心にわれを求めよ。さらば、汝らわれを見出さん。求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かれることを得ん。」(教義と聖約88：63)

今月の聖徒の道……………	481
ハロルド・B・リー……………	482
ジョセフ・フィールディング・スミス……………	486
一致の精神をみなぎらせよ……………	
ジョセフ・フィールディング・スミス…	490
「もし、あなたが快く従うなら」……………	
ゴードン・B・ヒンクレー…	491
汝惜しみなく受けたければ、惜しみなく与えよ……………	
ジョージ・アルバート・スミス…	494
兄弟たちを力づけなさい…ロバート・L・シンプソン…	498
アイルランドのお友だち……………	501
うずらの群れ……………メアリー・プラット・バリッシュ…	502
ニーファイの息子ニーファイ……………	
マーベル・ジョーンズ・ガボット…	505
小さなお友だちへ……………ボイド・K・パッカー…	506
やってみましょう……………	508
質疑応答……………	509
若いときに主に仕える……………ロバート・J・マッシューズ…	510
やがて受け継ぐべき王国…ジェームス・ワルドロップ…	512
世に対する証……………ハートマン・レクター・ジュニア…	515
平和……………エルドレッド・G・スミス…	518
ウイルフォード・ウッドラフ……………	
レオン・R・ハートショーン…	520
平和 (519ページより続き)……………	525
ローカル・ニュース……………	526

## 今月の表紙

今月の表紙は、末日聖徒イエス・キリスト教会の予言者、聖見者、啓示を受くる者、および第11代大管長として最近支持された、ハロルド・B・リー大管長である。

## 末日聖徒イエス・キリスト教会教会幹部

### 大 管 長 会

大管長

ハロルド・B・リー

第一副管長

N・エルドン・タナー

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

### 十二使徒評議員会補助

アルマ・ソニ

エルレイ・L・クリスチャンセン

スターリング・W・シル

ヘンリー・D・テイラー

アルビン・R・ダイヤー

フランクリン・D・リチャーズ

セオドア・M・パートン

バーナード・P・ブロックバンク

ジェームス・A・カリモア

マリオン・D・ハンクス

ジョセフ・アンダーソン

デビッド・B・ハイト

ウィリアム・H・ベネット

ジョン・H・バンデンバーグ

ロバート・L・シンプソン

O・レスリー・ストーン

ジェームス・E・フェウスト

L・トム・ペリー

### 大 祝 福 師

エルドレッド・G・スミス

### 十二使徒評議員会

スペンサー・W・キンボール

エズラ・タフト・ベンソン

マーク・E・ピーターセン

デルバート・L・スティプレー

リグランド・リチャーズ

ヒュー・B・ブラウン

ハワード・W・ハンター

ゴードン・B・ヒンクレイ

トーマス・S・モンソン

ボイド・K・パッカー

マービン・J・アシュトン

ブルース・R・マッコンキー

### 管 理 監 督 会

ビクター・L・ブラウン

H・パーク・ピーターソン

ボーン・J・フェザーストーン

### 七十人最高評議員会

S・デルワース・ヤング

ミルトン・R・ハンター

A・セオドア・タトル

ポール・H・ダン

ハートマン・レクター・ジュニア

ロレン・C・ダン

レックス・D・ピネガー

## 今月の聖徒の道

今月号はスミス大管長の逝去に関する詳細と、第11代大管長に任命されたリー大管長の任命の模様を詳細に取り上げている。また、1971年10月の総大会におけるスミス大管長の最後の説教も掲載している。最近他界したスミス大管長の説教を掲載することは意義があると思われる。

「汝、惜しみなく受け取れば、惜しみなく与えよ」これはジョージ・アルバート・スミス大管長の言葉であるが、いしえのモルモンの言葉を今後取り上げてゆく予定である。

「やがて受け継ぐべき王国」は今までになかった形式の記事である。これは夢を見てその生活を変えた人の物語で、多くの教会員が経験していることである。これを楽しみ読み物調にした。またこの物語は11月号の「心の糧」とも関係がある。

この聖徒の道で最も大切な記事は生ける予言者と使徒の話と証であることは言うまでもない。本号にはゴードン・B・ヒンクレイ長老、ロバート・L・シンプソン長老、ハートマン・レクター・ジュニア長老、エルドレッド・G・スミス長老の靈感あふれる勧告が掲載されている。

### 注

本号の子供のページはとりはずすことができる。本書の真中にある止め金を上に向け、子供のページをとりはずし、再び止め金を元の位置に戻すとよい。

## ステーキ部・伝道本部住所

### 東京ステーキ部

〒107 東京都港区北青山3の6の4 TEL (03-407-2465)

### 大阪ステーキ部

〒560 大阪府豊中市岡町北1の2の3 TEL (068-52-3723)

### 日本東伝道本部

〒063 札幌市中央区北2条西24の245 TEL (011-611-3697)

### 日本伝道本部

〒106 東京都港区南麻布5の8の10 TEL (03-442-7438)

### 日本中央伝道本部

〒657 神戸市灘区篠原本町4の6の28 TEL (078-88-2712-3)

### 日本西部伝道本部

〒810 福岡市中央区平尾浄水町46 TEL (092-52-6048)

ハロルド・B・リー

教会の第11代大管長に聖任された

ハロルド・B・リー

---



1972年7月7日金曜日は教会歴史において重要な時として書き留められるであろう。そのくっきり晴れた暑い夏の日の朝、ソルトレーク神殿内の神聖な一室においてハロルド・ビンガム・リー副管長は十二使徒評議員会会員により、教会の第11代大管長、また地上における神の王国の予言者、聖見者、啓示を受くる者として聖任され、任命された。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は7月2日日曜日、午後9時25分頃に逝去された。それから5日後に十二使徒評議員会の決定がなされたのである。スミス大管長の葬義は7月6日木曜日ソルトレーク・タバナクルにおいて挙行され、大管長はソルトレーク墓地に埋葬された。

翌日の早朝、大管長の死去に伴い教会の管理組織と

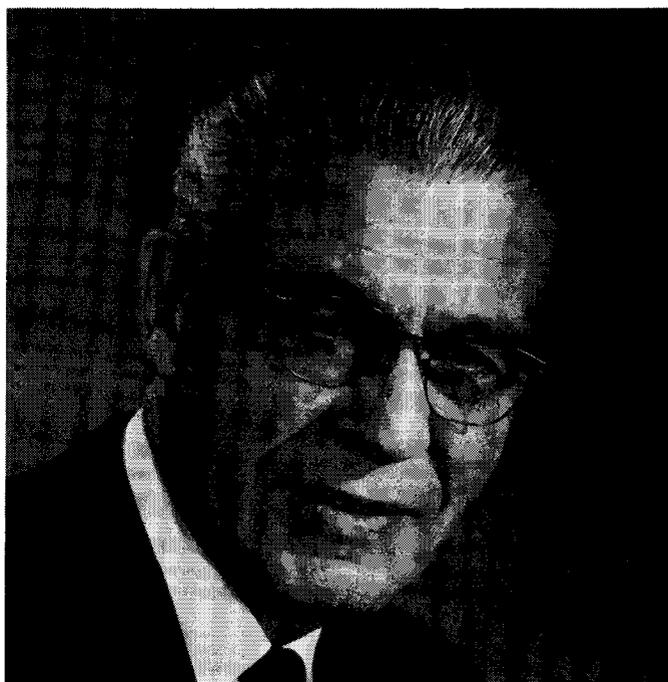
なった十二使徒評議員会会員は神殿に入り、新大管長会の組織を考慮した。十二使徒評議員会の前任の地位にあって同評議員会の会長であったリー長老が大管長に聖任され、任命された。スペンサー・W・キンボール長老がこれを宣言した。十二使徒評議員会の前任の地位にあるキンボール長老は今や十二使徒評議員会会長である。

リー大管長は聖任を受けた後、大管長会の2人の副管長、すなわちN・エルドン・タナーを第一副管長として、マリオン・G・ロムニーを第二副管長として、またキンボール長老を十二使徒評議員会会長として任命した。十二使徒評議員会の空席は10月の半期総大会まで持ち越される模様である。

聖任された朝の記者会見で、リー大管長は次のように述べている。「この地位に召された者として、教会員に与え得る最も大いなるメッセージは、神の戒めを守るようにということである。なんとならば、そこに教会と個人の安寧があるからである。今日私はこれ以上に力あるあるいは重要なメッセージを持ってはいない。」

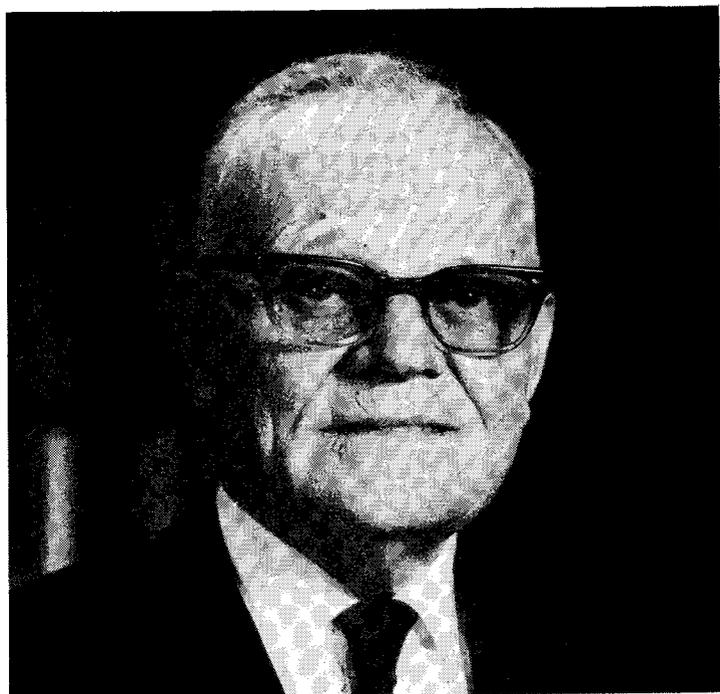
今日の世界の状況に関する質問に答えて、リー大管長は、予言者ジョセフ・スミスが140年前に主より知らされたこと、すなわち地より平和が取り去られ、サタンが力を持って支配することを述べた。「140年を経た現在、その時が今であることを疑う人がいるであろうか」とリー大管長は問いかけている。しかし、リー大管長は次いで、主が主の民の間に立って支配したもうと述べられたことをあげ、「世の邪悪に対して考え得る最も強力な武器はイエス・キリストの福音の原則である力強い教え以外にない。我々が世の恐れと偽りと邪悪に向かって立ち上がるために主が与えたもうたのである。」と声明した。

将来の問題についてリー大管長は次のように述べ



た。「教会は発展しつつある。これは今日我々にとって最大のチャレンジである。その発展に歩みを合わせあらゆる地域の教会員が正しく導かれ、教えられているかどうかを確かめることが今日の我々にとって最大の責任となっている。全能者の恵みにより、我々はいくつかのかしら石を置くよう教えられてきた。我々はこれから将来にわたってその基の上に築きあげることが望んでいる。」そしてリー大管長は聖句を引用し、自らの経験を述べ、主が教会を導いておられることを述べた。「私は何をせねばならぬのか、前以てそれを知らずただひとすじに「みたま」に導かれて行った。」(I ニーファイ 4:6)

また副管長を紹介するにあたってリー大管長は次のように述べた。「副管長を指名するのは私の責任である。この地上には幾人かの大いなる人々がおり、彼らは教会幹部となっている。彼らは他の人と同じように資格ある人々である。しかし、主に認められるべき人



を知るには綿密に人を見る必要がある。そのため私は全身全霊を捧げた。私はだれが私の副管長に召されるべきかについて証を受けた。彼らは人の意志や選びによって召されたのではない。主のみたまの指示と導きによって召されたのである。彼らは主に受け入れられる人々である。我々はそれを知っている。その証を受けた。」

新大管長会は国際色豊かである。リー大管長は合衆国で生まれ育ち、タナー副管長は合衆国で生まれたが、半生のほとんどをカナダで過ごし、ロムニー副管長はメキシコで生まれ育った。注目すべきことにタナー副管長は今や3人の大管長、すなわちデビッド・O・マッケイ大管長、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長、現在のハロルド・B・リー大管長の副管長として働くこととなった。

この時満ちたる神権時代の第11代大管長となったリー大管長は1899年3月28日、アイダホ州クリフトンに

生まれ、農家に育った。

17才の時に学校長の責任を引き受けて以来、1941年4月6日十二使徒評議員会に召されるまで、教育者（アイダホ州とユタ州において学校長）、宣教師（西部諸州伝道部）、実業家、官吏（ソルトレーク市理事）をつとめた。

パイオニアステーク部長時代、リー大管長は1932年に困窮者と失業者のためにステーク部内に監督の倉庫を設けた。教会がそのような福祉プログラムを教会全体の福祉計画に編入したのは1939年のことである。ハロルド・B・リーは最初の管理役員となり、22年間在位した。

教会幹部としてリー大管長は多くの教会中央委員会、補助組織管理会を指導し、援助してきた。近年リー大管長は、今や教会の教育、管理プログラムの多くと相互調整されているプログラムの組織と発展を監督するコーリレーション管理委員会に主として携わってきた。1970年1月23日以来、リー大管長は大管長会の第一副管長と十二使徒評議員会の会長をつとめてきた。このように広汎な経験を通じて現在の召しに備えられてきたのである。

タナー副管長が教会の注目を集めたのは、彼が1960年に十二使徒評議員会補助に召された時のことである。1962年に十二使徒に召され、翌年デビッド・O・マッケイ大管長の第二副管長に召され、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長時代もその地位をつとめた。

ナサン・エルドン・タナーは1898年5月9日に生まれ、農家で成長すると、若くして教育者となった。そしてのちに政府関係の仕事に入り、アルバータ州地方議員に選ばれ、そこで報道官をつとめた。また州内閣に入り、私企業に移るまで土地、鉱業長官をつとめた。タナー副管長は全カナダパイプライン株式会社社

長となり、教会幹部となるまではカルガリースターキ部長であった。

1970年にタナー副管長について次のように書かれたが、今日もなおそれは真実である。「彼の公平、高潔、慎みという偉大な徳は、半生のそこかしこで教会に好意を寄せる友を得るもととなり、大管長会においてもその管理力に大いに生かされている。」(「エラ」, 1970年3月号, P.3)

ロムニー副管長は1941年4月6日十二使徒補助に召されて教会幹部となり、1951年10月に使徒職に指名された。

彼は1897年9月19日メキシコのコロニアジュレに生まれた。1912年メキシコ戦争が勃発すると、彼は家族と共に北方のテキサス州に逃れ、後にアイダホ州リックスバーグに定住した。そこで彼の父はリックスカレッジの総長をつとめた。

スペンサー・W・キンボール



弁護士を職業とするロムニー副管長は多くの企業の役員、教育機関の理事をつとめてきた。1930年代の後半ボネヴィルスターキ部長時代にロムニー副管長は教会福祉計画を指導し、後に教会幹部として全教会福祉プログラムの会長となった。そのほか管理分野とし



大管長会再組織に次いで行なわれた記者会見において。左からロムニー副管長、リー大管長、タナー副管長。

て、宣教師プログラム、教会建築委員会、ホームティーチング、家庭の夕べプログラムにおける責任がある。

過去2年間半の十二使徒会会長代理をつとめて十二使徒会会長となったキンボール長老は1895年3月28日ソルトレーク市で生まれ、青年期のほとんどをアリゾナ州ですごした。公職にあつてまた実業界で著名な人物であった彼はアリゾナ州スタッフォードのマウントグラハムスターキ部長をつとめ、1943年7月8日に十二使徒評議員に召された。

喉頭癌におかされたキンボール長老は1957年に声帯の1つの摘出手術を受けた。しかし再び声を出ることができるようになり、今日キンボール長老は主イエス・キリストの神性と使命と教えを雄弁に力強く証するにあたって、深みのある落ち着いた声で語っている。たとえ話を用いて述べる彼の説教と書物は福音の原則を明確にし、妥協のない説明をしていることで知られている。

全教会員、教会の全役員、指導者はスターキ部大会と10月に開かれる第142回半期総大会の聖会において以上の尊敬し愛する指導者を支持する機会に浴するであろう。

あらゆる地に住む教会員は我々に代わって王国の諸業務を導くりー大管長と副管長に祈りと思いを寄せているに違いない。

使徒, 予言者, イスラエルの父

## ジョセフ・フィールディング・スミス

---

神の息子, 主イエス・キリストの使徒, 至高者の予言者, なかんずくイスラエルの父であるジョセフ・フィールディング・スミスは主の永遠のぶどう園で大なる働きをなし, 主に愛を示した後, 主により召された。

スミス大管長の死去の時ではなくとも, 命を与えたもうた神のみもとに帰るといふ彼の輝けるこの世の絶頂の時に, 私たちが喜びの声をあげるのには間違っているであろうか。

栄光に満ちた御父に愛され選ばれた息子が信仰を持ち続け, 自らの創造の業を十分に果たし今や永遠の休息に入ったことを私たちが天使と共に喜ぶのは誤っているであろうか。

神の息子であり, 生涯を通じて真実と忠実を続けた人, 第一の位を保ち死すべき世に喜びの声をあげた人, 永遠に高貴にして偉大なる者に数えられた人, ジョセフ・フィールディング・スミスは永遠の御父のもとを離れ, 1876年7月19日すばらしい両親のもとでこの世に生まれた。

天の家を離れて1世紀近くの後, この世の人々の間で旅人として96年に17日足りない日々を過ごした後, スミス大管長は自らの管理の職を

報告し, さらに主よりの光と知識とを受けるためふるさとに召された。彼はこの世で主の声を聞き新しい住居で主の顔を仰ぐであろう。

神の武具を身にまとい, 義の戦いをなし, 信仰を守り, 真実と忠実を続け, 今や全力を尽くして仕えた主の喜びに入っている。

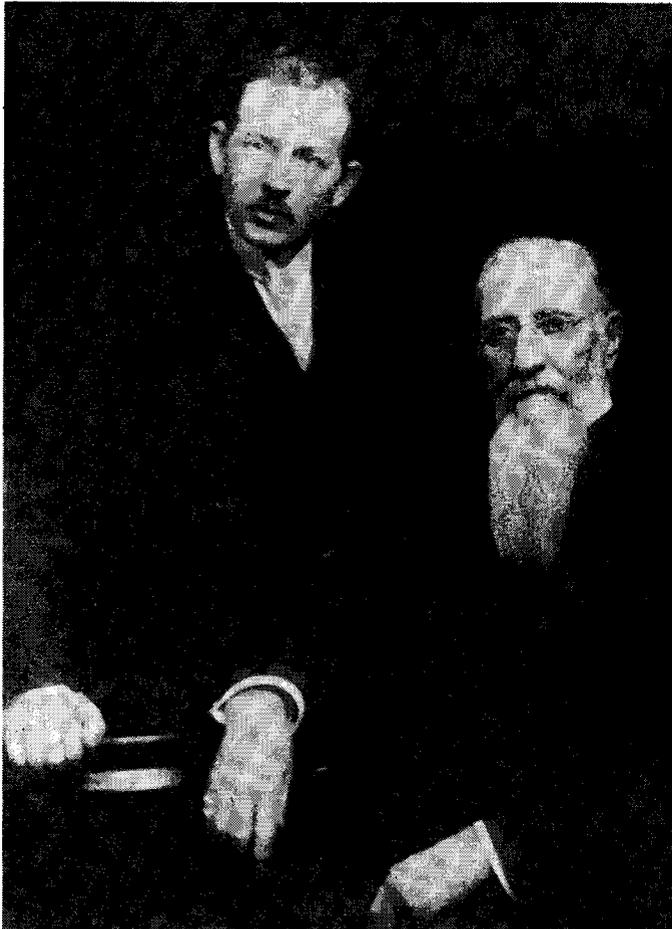
スミス大管長の生涯は1972年7月2日, 日曜日午後9時25分に終わった。そして今や神のパラダイスにおいて家族と友との喜びあふれる再会を得ている。長い間, 雄々しく信仰に満ちた旅をこの世で行なったように, スミス大管長は霊界で働き続ける。

私たちの間にあって生き働いていた間, スミス大管長の霊の住まうべき幕屋は老いて, 若人の活力はなかった。主の教えと導きを施す業において彼が望むことをなす力は弱められていた。老齢の陰は深みを増し, 死を知らせた。すべての人にとってと同じ様に, 死は「大いなる造り主の憐み深い道が成就するために」来る。

(Ⅱニーファイ9:6)

今や彼は自由である。この世で長く住んだ土の住いはもはや病いに束縛されることもない。





スミス大管長は束縛や制限を受けずに御父の業を行なうことができるのである。永遠に若人の力と強さをもって生きているのである。

晩年のスミス大管長は家族と、教えと導きを施す業の同僚、すなわち教会幹部の愛と友情に包まれていた。ハロルド・B・リー大管長とN・エルドン・タナー副管長という2人の霊の力と義に満ちた人ほど、スミス大管長の安寧を心配し、スミス大管長の見解と声明を反映させようとした人はいないであろう。主はこのような2人を永遠に祝福したもうであろう。

しかし現在スミス大管長は別の家族と友人の聖く喜びにあふれた中で休息を得ている。スミス大管長は愛するルイと共にいる。彼女は2人の娘、ジョセフィン（レインハード）とジュリナ（ハート）を生んだ。そして彼女は霊界で死すべき世の重荷を解かれ、聖徒たちと共に家庭にいる。またスミス大管長は9人の子供の忠実でやさしい母であるエセルと共にいる。彼女はエミリー（マイヤース）、ナオミ（ブリュースター）、ロイス（ファイフ）、ジョセフ・フィールドینگ・ジュニア、アメリア（マッコンキー）、ルイス、レイノルズ、ダグラス、ミルトンを生んだ。また愛するジェシーをかたわらにしている。彼女はスミス大管長と最も長年つれそった妻で、スミス大管長が重荷を背負っている時、助け励ました。

スミス大管長は父（ジョセフ・F・スミス大管長）と母（ジュリナ・ラムソン・スミス）と再会している。スミス大管長はこの両親に従い尊敬して、十戒において神が与えられた律法の意味を完全に理解した。またスミス大管長は息



子のルイスと喜びを分かち合っている。ルイスは第2次世界大戦で国を守るため命を捧げた。またデビッド・O・マッケイ大管長や共に働いた軍勢と共にいる。その中には予言者ジョセフ・スミスと祖父の大祝福師ハイラム・スミスもいるに違いない。

ジョセフ・フィールディグ・スミス大管長は地上における神の王国である教会で最高位にいた人である。1910年4月7日父より使徒に聖任され、十二使徒評議員会会員に任命されて以来他界するまで、スミス大管長は主のみ名の特別な証人として、力ある者、柔和なる者のうちにあって、あくことのない勤勉さをもって働き続けた。おそらくこの神権時代でスミス大管長ほど救いの真理を宣言するために長い距離を旅し、多くの集会に出席し、多くの説教を行ない、多くの儀式を執行し、多くの書物を残した人はいないであろう。まだ生まれぬ後代の人々もスミス大管長の書物より福音の教えを学んで、土より語るスミス大管長の声を聞くであろう。

しかしスミス大管長ほど自分の高い職、特別な地位に関心を払わない人はいなかった。あらゆる説教を通じてスミス大管長は、永遠の将来において聖徒たちに与えられる最も素晴らしい祝福と栄光は、どのように生きるか、律法を守るかどうか、選びによって家族と結び固められたかどうかにかかっていると宣言してきた。

デビッド・O・マッケイ夫人の葬儀において、彼女とマッケイ大管長の果たした偉大な貢献にいくつか触れた後、スミス大管長にこのように述べている。「教会と世の中において彼らの働きは偉大であり、重要であった。それゆえ彼ら

は永遠の家族が結び合わされるという最大の祝福を受けるであろう。」

リチャード・L・エバンズ長老の葬儀の際もスミス大管長はこれと同じ意味の言葉を述べている。エバンズ長老の世界にまたがる働きと影響力を賞讃した後、次のように語った。

「さて、彼の生涯と働きを今振り返ってみると何よりも強い印象を受けるのは、彼が御父の王国において永遠の栄光を自らにもたらしようなことを選んでいたという事実である。彼は自らに救いをもたらすために必要なことを行なった。彼はバプテスマを受け、聖霊の賜物を受けた。愛するアリスと主の宮居で今も永世にもわたる結婚をした。福音の律法に忠実であって、信仰を持ち続けた。

主の目から見た真に偉大なことは戒めを守り、すべての忠実な聖徒にとってありきたりのことをよく行なうことである。

私はこれ以上に大きな希望、輝ける教え、慰めを与える知識を知らない。それは、家族の結びつきは主の律法を完全に信じ、従う者たちにとって永遠に存続するということである。」

スミス大管長は人としてまた予言者として、聖徒たちの心にとこしえに秘め続けられるであろう。スミス大管長と彼の業については多くのことが語られるであろう。スミス大管長の葬儀に際して述べたことを私は今引用した。それらはおそらく、新しく、知られていなかったことである。

# 一致の精神を みなぎらせよ

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長



**大** 管長会において私のかたわらに立つ2人の偉大な方の信仰と献身と奉仕に対して心よりの感謝を表わしたい。

ハロルド・B・リー副管長はエノクのような信仰を備えた霊的な巨人である。彼は啓示のみたまを持っており、予言者、聖見者、啓示を受くる者としての自らの召しを全力を尽くして遂行している。

N・エルドン・タナー副管長もこの主の教会で現在彼が果たしているように、大切な業をなすよう永遠から備えられた高貴にして偉大な者の1人である。彼は卓越した能力と徳を持った人である。

大管長会は1つに結び合わされている。御父と御子と聖霊とが1つであるとイエスが言われたように、私たちも1つとなることを私は祈ってやまな

い。これと同じ一致があらゆるステークス部長会、あらゆる監督会、神権定員会、会長会にみなぎっていなければならない。

また私はスペンサー・W・キンボール長老と十二使徒評議員会の方々の働きと業に感謝している。すべての教会幹部に対しても同様である。私はあなたがたに私がこの兄弟たちを愛していることを知っていただきたい。

私は忠実な教会員を祝福したいという思いを心に抱いている。彼らが真理と徳の道を歩み続けるならば、必ず心に義なる望みを抱き、時至らば御父の王国において永遠の報いを受けるという目的に向かって進むに違いない。

私は全生涯を通じて戒めを守り、主に喜ばれることをなそうと努めてきた。そして私は主の戒めを守ると誓約したすべての子らにも私が主から受け

た良きことが与えられると証したい。

私は人生のたそがれとも言うべき今ここに立っているが、私がこの世の管理の職について報告するため召される日は遠くないことを知っている。私は再びこの大いなる業が真実であり、神聖なものであることを証する。

私は神が生きてましまし、私たちの罪を贖うため愛子を世に送りたもうたことを知っている。

私は御父と御子が予言者ジョセフ・スミスに現われたまい、この最後の福音の神権時代を開かせたもうたことを知っている。

私はジョセフ・スミスが予言者であったこと、今もなおそれは変わらないことを知っている。さらに、これは主の教会である。また福音は水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるまで進み行くことを知っている。

私たちはすべて主を愛している。私は主が生きてましますことを知っている。私は主のみ顔を仰ぎ見る日を待っている。そして主の声が私に向かって「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい」(マタイ 25:34)と言われるのを願っている。

私はこの幸福な行く末が私たちすべてにそれぞれの時に与えられることを祈っている。これらをイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン

# 「もしあなたが快く従うなら」

十二使徒評議員会会員

ゴードン・B・ヒンクレー

つい先だって、私はロンドンのトラファルガー広場に立って、ネルソン提督の像を見上げた。柱の敷石には、ネルソン提督がトラファルガーの戦いの朝語った言葉が刻まれている。「英国はすべての国民が自分の義務を果たすことを望む。」ネルソン提督はほかの多くの兵士たちと同様1805年の歴史的な日に戦死し、この犠牲によってイギリスは一国家として残され、ブリテンは帝国となった。

この時からみると、義務と従順のイメージはひどくさびれてきた。これはさして目新しいことではない。有史以来問題とされてきたことである。イザヤは古代のイスラエル人に次のように言った。「もし、あなたがたが快く従うなら、地の良き物を食べることができ。しかし、あなたがたが拒みそむくならば、つるぎで滅される。これは主がその口で語られたことである。」(イザヤ1:19-20)

私は、グラント大管長が、少年の頃モルモン経を読んだ経験を話しているのを14、5歳の頃このタバナクルの時計の真後ろにあるバルコニーに座って聞いていたことを思い出す。グラント大管長は、ニーファイが彼の人生に及ぼした偉大な影響について話した。それから、グラント大管長は次のような偉大なニーファイの言葉を、私には決して忘れられない確信に満ち満ちた声で引用した。「私は主が命じたもうたことを行って行く。私は、主が命じた



もうたことには、人がそれを為しとげるために前以ってある方法が備えてあり、それだけでなく、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである。」(1ニーファイ3:7)

この時、若い私の心の中に、主が命じられることを行なうよう努力する決心が生じたのである。主のみたまにより私に力があれば、同じように今日ここに集まっておられるだれかに影響を与えることができると思う。

人が信仰を持って、従順に望まれる道を歩く時、何と驚くべきことが起っていることか。最近私は、危険の多い中を大胆にも太平洋から太西洋へと極地の氷海に潜水艦ノーチラス号を運送させた海軍士官ウィリアム・ロバート・アンダーソン中佐の手による興味深い物語を読んだ。これには危険な離れわざがいくつか書かれていたが、この本はアンダーソン中佐が所持していたさいふの中のぼろぼろになったカードに書かれており、次のような言葉で

まとめられていた。私はこれを読んでみたい。「私は常に神のみ手に導かれていることを信じている。私は常に正しい道をとることを信じている。私は常に神は道なきところに道を作りたもうことを信じている。」

私もまた、神は常に道なきところにも道を備えたもうことを信ずる。私たちが神の戒めに従って歩き、神権者の勧告に従うならば、道がないと思われることにさえも道を開いたもうであろう。

ロンドンのトラファルガー広場に面して英国国立美術館があるが、この中には幼い時に主のみ声を聞き、「しもべは聞きます。お話しください。」

(サムエル上3:10)と答えた少年サムエルを描いたヨシュア・レイノルズ卿の絵が掲げてある。

その日からサムエルは神の戒めに従って歩み、偉大なイスラエルの予言者となったのである。サムエルはサウル王とダビデ王を選んで聖任したのである。サムエルがサウルに語った、「…従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。」(サムエル上15:22)という叱責の言葉は世代を通じて語られてきた。

私は地上を襲うききんと干ばつについてアブラハム王に警告した予言者エリアの話から力を得た。しかし、アハブはあざけたので、主は、エリヤにケリテ川に行って身を隠し、そこで小川の水を飲み、からすから食物を与え

られるであろうと言われた。聖典には「エリヤは行って、主の言葉のとおりにした。」(列王上17:5)との簡単でしかもすばらしい文章が記されている。

そこには何の議論もなく、何の弁解もない。またそこにはあいまいなことはない。ただエリヤは「行って、主の言葉のとおりにした」のである。それでエリヤは、あざけり笑い、論争し、疑った人々にふりかかった恐しい災難から救われたのである。

主のみ言葉に従うことは、常に容易であるとは限らない。私たちは自分がそれにそぐわない者であると思うかもしれない。私はしばしば、エジプトからイスラエル人を連れ出すように召されたモーセがエホバと交わした会話の中に慰めを見出すのである。モーセは逃亡者であり、羊飼いであった。モーセはいかに自分が不適当な者であるかを感じたにちがいない。

「モーセは主に言った、『ああ主よわたしは…言葉の人ではありません。わたしは口も重く、舌も重いのです。』(私はモーセが、「どうか私に頼まないで下さい」と言っているのがよくわかる。)主は彼に言われた、『だれが人に口を授けたのか……。それゆえ行きなさい。わたしはあなたの口と共にあって、あなたの言うべきことを教えるであろう。』(出エジプト4:10-12)

1837年、オハイオ州カートランドで教会が困難に直面していた時に、予言者ジョセフ・スミスはヒーバー・C・キンボールに英国へ行ってそこに伝道地を開くよう召した。キンボール兄弟は自己嫌悪に陥ってこう叫んだ、「私はどもりであり、決してこのような仕事には向いていません。私はどのよう

にしてその国に福音をのべ伝えたらよいのでしょうか。イギリスは学問や知識、信仰において有名なキリスト教国です。そして、知識ある人々が多いのは周知の通りです。」

しかし、彼は反省して次のようにつけ加えたのである、「しかしながら、私はこのような考えによって務めの道をふみ誤ることはありませんでした。天父のみ心がわかった瞬間、主が全能の力によって私を支持し、必要な時すべての資格を私に授けたもうことを信じ、また私の家族が寂しがっても家族を貧困の中に残して行くことを決心しました。そして、真理のために、キリストの福音ゆえに他の考慮すべきことをすべてあとまわしにしました。」(オルソン・F・ホイットニー著。「ヒーバー・C・キンボールの生涯」P.104)

キンボール兄弟は海を渡り、ランカシャーのプレストンで、彼とその同僚たちに敵対する獄屋の悪魔たちと戦いながら伝道を開始したのである。このようにしてこの地で伝道の業が始められ、無数の人々が祝福を受けた。当初この地における伝道は苦難に満ちたものであった。しかし、宣教師たちの忠実な働きによってやがて大きな実を結ぶに至った。それが最近マンチェスターで開かれた地区総大会である。

私たちに与えられている割当ては快いものではないかもしれない。らい病人のナアマンは病いを癒してもらうために戦車に乗り、予言者エリシャに捧げる贈物や金を携えてやって来た。しかし、エリシャはナアマンを見もせず、使者を遣わして、「あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、あなたの肉はもとかえって清くなるでしょう。」と言ったの

である。

スリヤの軍勢の長であり、誇り高きごうまんナアマンは非常な侮辱を感じ、去って行った。しかしナアマンは召し使いにだめられて、はじめてそこに戻るまで謙遜になったのである。聖書はこのように書かれている、「そこでナアマンは下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、その肉がもとかえって幼な子の肉のように清くなった。」(列王下5:1-14参照)

このホールに皆さんがよく知っておられる人が座っておられる。数年前、彼はコロラド州デンバーに伝道本部を置く西部諸州伝道部で伝道するという伝道の召しを受け入れたのである。彼は大学の討論グループの一員として、何度もデンバーに行ったことがあった。そこはただ山ばかりであった。彼とその両親は、異国情緒あふれる平原を夢み、「珍しい名を持つはるかかなたの地のような所」を連想していたのであった。友だちは笑った。彼を愛する者たちの何人かは、彼の召しに知恵と靈感が用いられたかどうかを疑った。なぜ、彼のような若者がソルトレーク市からデンバーのようなところに伝道に召されるよう選ばれたのだろうか。しかし、彼は行ったのである。彼は有能な宣教師となった。そして、現在彼を遣わして下さったことを主に感謝している人々がいるのである。彼は副伝道部長に任命され、指導者を養成するすばらしい経験をしている。彼はそこで美しい女性に会い、後に結婚したのである。その特異な伝道経験を通じて、彼は自らを備え、やがて教会の重要な職において大きな働きをなすにいたったのである。彼は今日

十二使徒会地区代表としてここに座っている。

私の後ろに座っておられるハロルド・B・リー大管長も同じ状況のもとに同じ伝道部に行かれ、私たちが彼の生涯の中で目撃してきたように偉大な驚嘆すべき性格を従順によって得られ、私たちが心から彼を愛しているということをつけ加えたいと思う。

私は私自身の神聖な証を述べたいと思う。

40年前、私は英国へ伝道に行ったがその時、ロンドンにあるヨーロッパ伝道部で、当時ヨーロッパ伝道部の伝道部長で後に十二使徒評議会会員になったジョセフ・F・メリル伝道部長のもとで働くように召された。ある日のこと、ロンドンの3、4の新聞は品位を傷つける不快な口調で、再版された誇る古代の本の批評を載せ、その本はモルモンの歴史であると書いていた。メリル伝道部長は私に、「きみに新聞社に行って抗議してほしいのだが」と言った。私は伝道部長を見つめた。そして、「いいえ、私にはできません」と言いかけそうになったが、おとなしく「はい、伝道部長」と答えたのである。

私はためらわずに、おびえていたことを申し上げる。私は自分の部屋に行き、主がモーセにファラオに会いに行くように言われた時、モーセも私が感じているようなことを感じたに違いないと思った。私は祈りを捧げた。フリート通りにある駅まで歩いていく間、まるでひどく胃をかきまぜられるようであった。社長の部屋を見つけ、受付係に名刺をさし出した。受付係はそれを持って部屋の中に入って行ったが、すぐに戻ってきて、スキフینگトン

氏は非常に忙しくて私に会えないと言った。私は5千マイルもの所からやって来たのだから待ちますと答えた。それから1時間、受付係は社長の部屋に2、3回とりついでいたが、ついに中へ招き入れられた。中に入って行った時の光景を私は決して忘れることができない。彼は「邪魔しないでくれ」というような顔つきで長いたばこを口にくゆらせていた。

私は手に記事を持っていた。その後何と言ったか私は覚えていない。私以外の力が私の口を通して話をしたように思われた。最初、社長は自己の主張を擁護し、戦闘的な態度さえとっていたが、次第に彼の心が和らぎ始めたのである。彼はあることを行なうという約束をしてくれた。それは、1時間以内に英国にあるあらゆる本屋に司令してその本を出版社に回収させるというものだった。この本が歴史として考えられるべきものではなく、単なるフィクションであり尊敬すべきモルモンに対して感情を傷つける気持は全くないことを表明する声明文を多額の費用を使って本のとびらに印刷したのである。後年、彼は教会のためにこのほかにも実質的な価値のある好意を寄せてくれた。また私は彼が死ぬまで、毎年彼からクリスマスカードを受け取った。

神権者の要求に従い、信仰を持って進む時、道がないと思われるような時でさえも主は道を開いたもうことを私は知ることになった。

10年前の先週の金曜日、私は十二使徒評議会の一員としてこの大いなるタバナクルにおいて支持された。この10年間は地上の種々様々な地において信仰を増す経験に満ち満ちたすばらしい

年月であった。私が今までに経験した中で最も報いある経験は、毎週、この建物の東側に立っている神殿で大管長会と十二使徒評議会の集会に出席することである。ここには主のみこころを嘆願する熱烈な祈りがある。この神聖な場所において、教会が提供する人の心を動かす決定やプログラムが、啓示のみたまを通して示されるのである。

この10年間の経験の中から、私は神がご自身の民に関して絶えず道とみこころを知らせたもうことを証する。教会の指導者は、主の助けがあってもできないようなことをするようにと私たちに依頼することは決してないことを証する。私たちは自分がふさわしくない者であると思うかもしれない。私たちに行なうよう依頼される事柄は好みに合わないものであるかもしれない。また自分の考えにそぐわないものかもしれない。しかし、信仰と祈りと決意を持って努力するならば、私たちはそれをなしとげることができるのである。

私は証申し上げる。末日聖徒の幸福、末日聖徒の安らぎ、末日聖徒の進歩、末日聖徒の繁栄、この民の永遠の救いと昇栄は、神の神権者の勧告に従順に従って行く時、得られるのである。

「感謝を神にささげん。予言者の導き」（讚美歌170番）

おお主よ、私たちが喜びて従順に従う者となり、この地の良きものを口にすることができるように助けたまえ。父よ、私たちが汝を信頼し、喜び勇みて進み、心を和らげて汝の祝福を受けるにふさわしい者となれるように助けたまえ。へりくだりてイエス・キリストのみ名により祈り奉る。アーメン。

# 汝、惜しみなく受けたれば 惜しみなく与えよ

末日聖徒イエス・キリスト教会

第8代大管長 (1870~1951)

ジョージ・アルバート・スミス

当教会第8代大管長ジョージ・アルバート・スミスは1870年4月4日、ソルトレーク市に生まれた。彼は、毎年誕生の折にはほとんど総大会に行ったものだったと、目を輝かせながら後述している。彼をとりわけよく知る人々は、彼の好む場所が総大会の行なわれる場所であったことを知っていた。ジョージ・アルバート・スミスは1903年10月8日にジョセフ・F・スミス大管長により使徒に聖任され、1945年5月21日に当教会大管長として支持された。大管長は1951年4月4日の誕生日に亡くなった。

「汝、惜しみなく受けたれば、惜しみなく与えよ」は1945年11月4日、ワシントン（首都）ワード部での話からのものである。

我々は時に世界の貴族政治、すなわち一部の特権階級による政治について話すことがある。神が承認したもう貴族政治はただ1つしかなく、それは義

の貴族政治である。神は次のように記したもうた。「われは罪を……いささかもこれを許すを得ざればなり。」（教義と聖約1:31）これはなぜであろうか。それはもし我々が罪を犯したならば、祝福に至る道を捨て去らない限り受けることのできる祝福を失ってしまうということを神が知りたもうからである。従って我々は、それらの事柄を学び覚えて、生活を変化する世界の情況に順応させることが望まれる。また現世を離れる時に愛する人々と共に主の王国に居所を見出すことができるようによく準備することが望まれるのである。

私は自分のある経験を思い出す。その時私はイギリスに滞在しており、車中であつた。私の隣の席に座っていた人は長老派教会の牧師であつた。その人が私に話しかけてきたので、私は自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを告げた。すると彼は

驚いた様子で、「あなたはそんなグループに入っていて恥ずかしいとは思いませんか」と言った。

私はそのような彼にほほえみながら言った。「兄弟、私は自分の知っていることを考えると、このようなグループに入らない自分をそれこそ恥ずかしいと思いますよ。」それから私は彼に話したい旨を伝えた承を得てから、我々の信条のいくつかについて説明した。すると彼は次のように言って話を始めた。「あなたはどのようにしてイギリスくんだりまで来て、この国の人たちにこの美しい土地を離れてアメリカへ行くように言うのですか。どうぞ私たちが楽しく過ごし、またここで幸福を味わえるように、私たちをそっとしておいて下さい。あなたは私たちの家族を分割しひき離すために来たのですか。なぜそっとしておいては下さらないのです。」

そこで私は言った。「兄弟、あなた

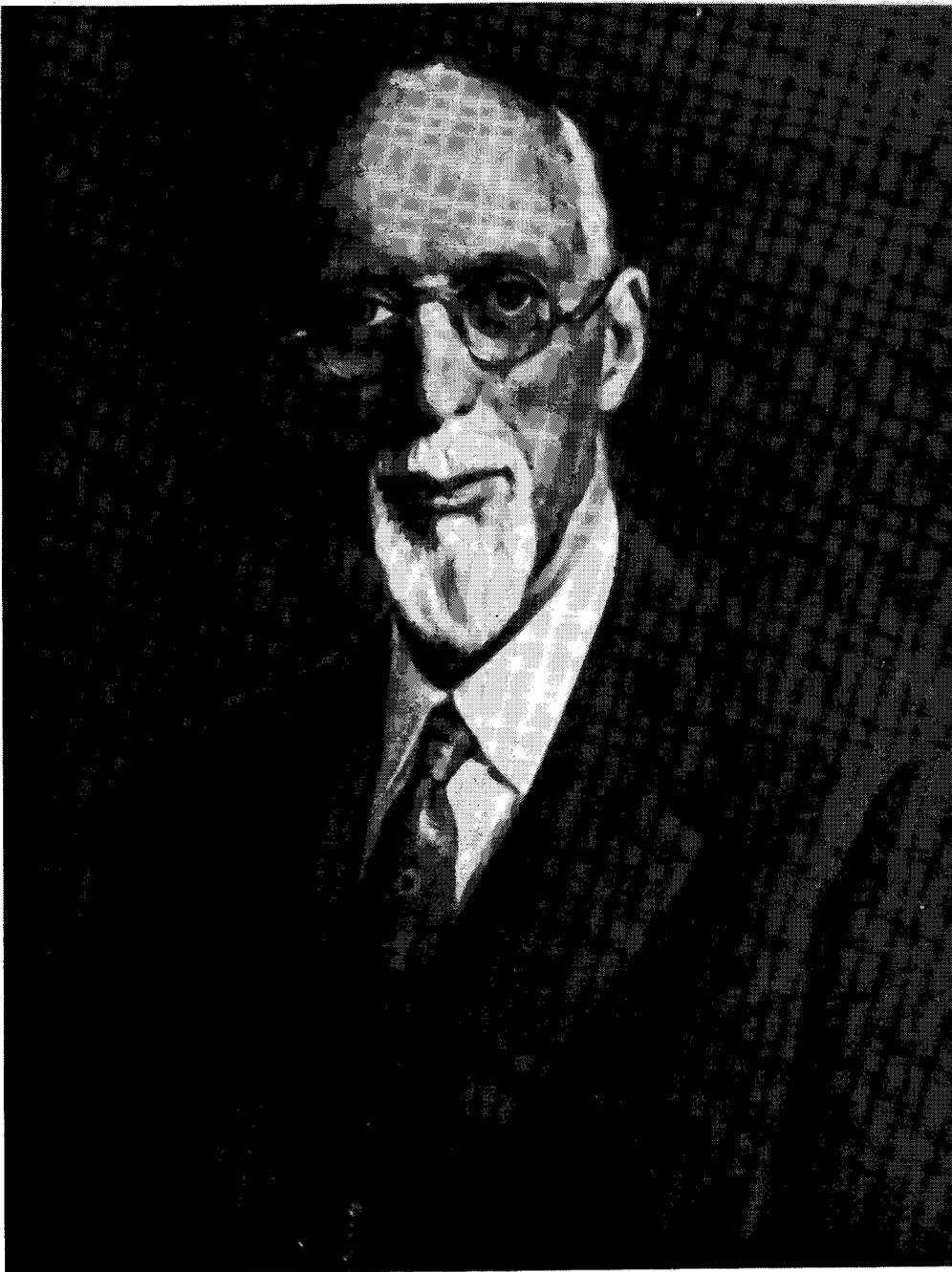
は聞き違いをしています。私たちはあなたから何かを奪おうとしてやってきたわけではありません。あなたの家族を分割しようとやって来たのでもありませんし、教会を衰退させるために来たわけでもありません。」

すると彼はこのように言った。「あなたは現在私たちが管理できない程た

くさんの教会があり、たくさんの牧師がいる時に、牧師を連れてこの国へ来られました。なぜあなたはそっとしておいては下さらないのです。なぜ私たちが行なっているように、異教徒に福音を宣べ伝ええないのですか。」私は答えて「そのようにしていますよ」と言った。

すると彼は「ではどこに行っておられるのです」と尋ねた。そこで私が、「私たちが行こうとしている場所の1つがイギリスです」と答えると、やや当惑気味に私を見つめたので、私はこう言った。「兄弟、私は別にいやなことを言いたいわけではないのですよ。ただ真理とは何かを理解していただきたいだけなのです。」そう言ってから、私は「異教徒とは何ですか」と尋ねてみた。すると彼は言うまでもなく例の定義すなわちアブラハム、イサク、ヤコブの神を信じない者だ、と答えた。これはまさにその通りであった。そこで私は言った。「イギリスにはそのような人はいませんか。」「たくさんおります。」彼がこのように答えたので、私はこう言った。「でしたらあなたがそのような人たちを改宗しておられず、私たちがあなたを助けるためにここにやって来たのですから、あなたが私やほかの宣教師たちに苦情をおっしゃる筋合いはありませんね。」

こう言って私はさらに話を続けた。「まず、私たちはここにいらっしゃるあなた方のように優秀な人たち全員に、あなた方の教会で得、また聖典の中から吸収された輝ける真理をすべて大切になさるよう、またあなた方の教育機関で受けられたすぐれた訓練、あらゆる方面から得た知識や真理をみな大切になさるよう申し上げたいのです。あらゆるものを大切になさるよう。今まで伸ばしてこられたすぐれた特質を大切にして下さい。あなた方の特質はみなあなた方の良い家庭から来たものです。かくも美しくすばらしい国に育ったことにより生まれたあなた方の心の美しさや愛を大切にして下さい。あ



らゆるものを大切になさるよう。これはみな福音の教えです。

それでは座って、私たちの生活を豊かに幸福にしている、まだあなた方まで行き渡っていない事柄を話しましょうか。私たちは無料、無代であなた方に申し上げます。ただ私たちの申し上げることを聞いていただきたいと思えます。そしてもしあなた方の気持ちに訴えるところがありましたら、自由に受け入れて下さい。何ら訴えるところがありませんでしたら、私たちはもっと幸運な人を捜して先へ行きます。イエス・キリストの福音を豊かに受け入れて、豊かな人生にしようという人を捜して。」

これが末日聖徒イエス・キリスト教会の態度である。

しばらくの間このことを分析してみよう。アメリカ合衆国また世界各地に訓練された強く勇敢な男女、また知的なすばらしい人々、良い人々が数多くいる。彼らはあなた方が考えつくあらゆることを知っている。しかしそれにもかかわらず、このような人々の中には神を知らない人々がいる。彼らはイエスが世の救い主であることを知らず、イエスは普通の人間と同じように死に、普通の人間と同じように世を去ったと言う。またイエスは神ではなかったと言う。

彼らに答える際に、イエスが人々を神の道に導くほど成長しなすべきことを悟られた時、ヨルダン川でバプテスマを施していたいとこのヨハネに、バプテスマを施してもらいたいと自ら求められた事実注意到を向けていただきたい。ヨハネは次のように言った。「わたしこそあなたからバプテスマ

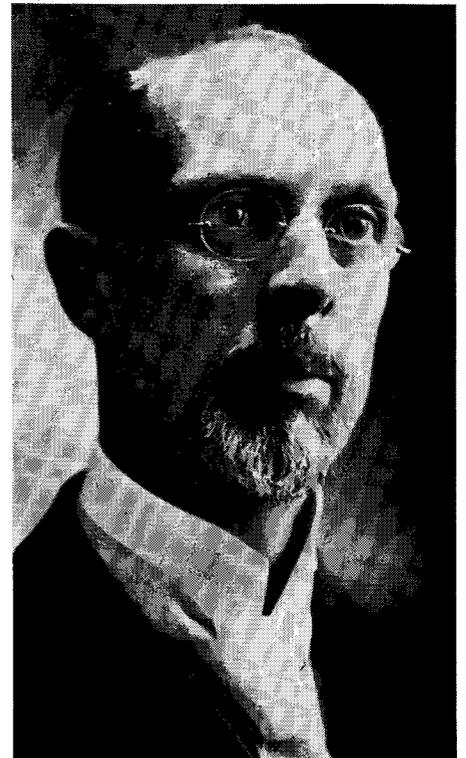
を受けるはずなのに、あなたがわたしのところにおいでになるのですか』しかし、イエスは答えて言われた、『今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。』」（マタイ 3：14—15）

イエス・キリストは水の墓へ降りて行って水に沈められると水から上がられた。すると聖霊がはどのように下ってきた。「また天から声があつて言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。』」（マタイ 3：17）

その後このナザレのイエスは教会を組織されて、人々の間に行つて福音を宣べ伝えられた。

そしてその後十字架にかけられたもうた。イエスの体が墓に横たえられて3日の後、マグダラのマリヤと他の女たちが、死体を埋葬する準備を行なうために墓へやってきた。この者たちが墓へやって来ると、見よ、墓の入口にあった大きな石が転がっていた。

女たちが中をのぞいてみると、そこには捜していた人の姿はなく、1人の人が立って驚いている女たちの様子を見ながら、女たちの方を見つめておられた。そこで女たちの1人マリヤが、その人を園の番人だと思つて尋ねた。「あの人たちはわたしの主をどこへ置いたのでしょうか。するとその人は、主は復活された、というかわりに、ただ『マリヤよ』とおおせになった。主が生き返られたのを見て喜んだマリヤがイエスにさわろうとしたことは疑うべくもない。しかしイエスは言われた。わたしにさわってはいけない。マリヤ



十二使徒評議会会員の  
ときのスミス大管長

ボーイスカウトの面で貢献し、  
屋外活動を楽しむ人であった。



よ。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行き、「わたしは、わたしの父またあなたがたの父であってわたしの神またあなたがたの神であるかたのみもとへ上って行く」と、彼らに伝えなさい。」(ヨハネ20：15—17参照)

ある時この女たちが1つの部屋に集まっていた。迫害する者たちを恐れて部屋を閉じ戸に鍵をかけていたのである。すると突然その部屋の中に生ける御方、不死不滅の御方が現われたので女たちは驚いた。女たちの前に現われた御方は復活された主であった。女たちは恐れおののいた。主は女たちの途方にくれた様子を見て、心からの親切とやさしさをこめて次のように言われた。「……霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。わたしにさわってみなさい」(ルカ24：39参照)

さて我々はこれらのことすべてを受け入れているが、何百万人という天父の子供たちはこれらのことを受け入れず、本当であるはずがないというあらゆる種類の理由をつけている。

イエス・キリストの復活後しばらくしてから、たくさんの人々が西半球のバウンテフルの地の神殿の回りに集まった。そして突然1つの声を聞いた。それから声のしている方を見ると、天が開けて栄光に満ちた不死不滅の御方が降りてきて、彼らの前に立っておられるのが見えた。その方は彼らに次のように言われた。「見よ、われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。」(Ⅲニーフアイ11：10) イエスは敵に捕え

られたといっても無力だったわけではなく、力と栄光とを持ってニーフアイの民を訪れ彼らに真理を教え、幸福で栄光ある生活を送るために行なうべき事柄が何であるかを理解させたもうたのである。

我々はこれらのことを信ずる。我々はこれらのことを真実として受け入れる。

しかしそれだけではない。我々の末日の聖典にはまた、イエス・キリストの聖なる使命に関するその他の記事が書かれている。その中にはまだ15歳にもならない一介の貧しい農夫の息子であった1人の少年に現われたもうたキリストの姿が書かれている。この少年は「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば与えられるであろう。」(ヤコブ1：5)という聖句を読んだ。

そこでこの少年は森へ入って行ってためしてみた。この約束は成就したであろうか。確かに成就したのである。そして少年がひざまずいて祈ると、御父と御子が現われたもうて、御父は、何を望んでいるのか、とその少年に聞きたもうた。そこで少年はどの教会に加わるべきか知りたいと言った。すると御父は、どの教会にも加わってはならぬ、と言いたもうた。そしてさらに、少年には行なわなければならない使命があり、そのことについて告げられるであろう、と言われた。

このようなことから、我々は救い主の姿及び救い主がユダヤの民と交わられたこと、また救い主の姿と教会の組織、救い主が西半球の人々と交わられ

たこと、また私たちの時代、すなわち百年余りに少年ジョセフ・スミスの前に御父と御子とが来たりたもうたことがわかる。

またここにもう一つの証がある。バプテスマの水に沈められ、聖霊を受け、天父が与えたもうた教えに従った生活をするならば、我々は他のだれのためでもなく自らのために、教義を、すなわちイエスがキリストであることを知ることができる。

主は我々がイエス・キリストの福音を受け入れることに対して何を約束されただろうか。主はあらゆる他の良きものを約束された。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6：33)と言われたのは救い主であった。それゆえ私はここに立ってあなた方末日聖徒の方々、あなた方福音を受け入れた男女に申し上げる。神が与えたもう永遠の祝福を得るために準備することは価値のある祝福はないのである。真理を受け入れそれを実践し、他の人々と分ち合おうと求めている人々にもたらされる平和、幸福、喜びは世界のほかのどこを捜しても見つけることはできない。真理は豊かで美しい。我々を幸福にするものは私たちが受けるものだけではなく、我々が与えるものである。また御父の子供たちを高め豊かにするものを与えれば与えるほど、私たちはさらに与えなければならなくなる。そしてそれは我々生命の泉となって、永遠の幸福へと満ちあふれるのである。

私はこれらのことが真実であることを主イエス・キリストのみ名によりて証申し上げる。アーメン。

# 兄弟たちを力づけなさい

十二使徒評議員会補助

ロバート・L・シンプソン

愛する神権者の兄弟たち、私はこのような機会を与えて下さった天父に感謝申し上げます。私たち管理監督会は、今晚この場所に集まっておられる皆さん方アロン神権の年若い兄弟たちを称賛したいと思う。主はこの時にこの場に集まっておられる皆さんを喜びとしておられる。私は皆さんにお話し申し上げたいと思っているわずかの事柄を述べるために準備したが、おそらくこの心のチェックリストは順序立っていることと思う。

皆さんがこの神権会に出席された理由について、私が今から申し上げる次の事柄に、はい、またはいいえで答えていただきたい。

1. 私は家族の他の者たちが出席するので、この集會に出席している。
2. 私は今晚テレビでフットボール試合の放送がないのでここに出席している。
3. 私は父が「神権会に行くのかね、どうするのかね」と言ったのでここに出席している。
4. 私は主を愛しており、私の持つ神権が宇宙で最も重要な善の力であることを知っているので、出席している。

今申し上げた事柄に関する皆さんの答えが何であろうと、主は皆さんがここに出席しておられることを喜びとしておられ、皆さんはすでに生ける予言者を通して主より賜った指示を聞いて、その報いを豊かに受けておられる。皆さん方1人に対して、4人の神権者がこの集會に出席することよりさらに重要な事があると考えている、また彼らには私たちと共に出席する必要があると言ってくれる人がなかった。私は

皆さんがここに出席しておられることを称賛したいと思う。

皆さんが世界史上で最も大きな神権者の集會に出席していることに関してあまり大きな興奮を覚えておいでにならないならば、私はこの集會で行なわれる事柄と皆さんとの直接の関係について考えるために、5つの重要な事柄を申し上げたい。

1. 父なる神と御子イエス・キリストはこの時代に現われたもうた。

2. 神の永遠の神権のすべての鍵と力およびそれに付随する、人に与えられたすべての権能と祝福が地上に回復され、再び取り去られることはない。

3. この回復を助けるために、この時代に使命を受けて少なくとも9人の天よりの御方が現われたもうた。この方々の名前をあげると、父なる神、御子イエス・キリスト、使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、バプテスマのヨハネ、モロナイ、エライジャ、エライヤスである。

4. 延べ1,495ページに及ぶ3冊の聖典が人類をさらに高く導く書物として啓示され、この危険な時代に人々にさらに指示を与えている。

5. 最後に大切なことを1つ申し添えるが、生ける予言者は私たちの長として立っておられ、この集會を管理しておられる。そして予言者は今、私たちに神のみ旨を述べられたばかりであって、これはまさに今も啓示が続いているというきわめて新しい証拠である。

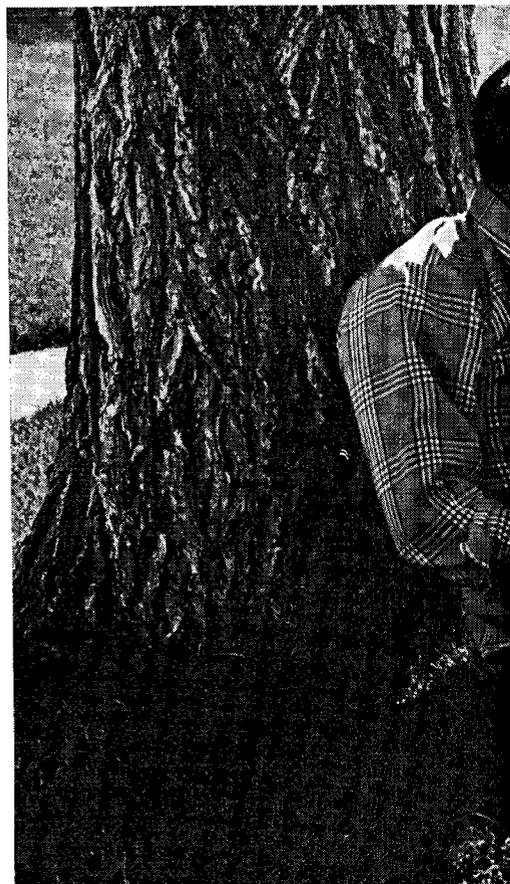
さて、今まで申し上げた事柄はどれ1つをとっても、世界中のあらゆる新聞の第一面の見出しにしてもよいほどの価値があるはずであるが、想像されるところ真理に飢えかわいている30億

以上の人々から得た答えは事実上次のようなものである。

「いと高き所から訪れがあったとか唯一の神権だとか、さらに付け加えられた聖典、生ける予言者などとそんな夢のような主張をなさるあなたは、一体御自分をだれとお考えですか」

皆さん、私は知るべきことを全部知っているわけではないが、私と与えられた啓示によって知った事柄が幾つかある。そして主のみたまは、もしまだ皆さんに真理を証しておられなければ、私に与えられたと同じ真理を皆さん一人一人に証したいと切に望んでおられると思う。

聖典に「召さるる者は多けれども選ばれる者少き……」(教義と聖約121:40)と記されている。皆さん方は自分



が召されたばかりではなく同時に選ばれる可能性もあることを知っておられるだろうか。もちろんそうである。皆さんはこのすばらしい集会の行なわれるこの場所に参加しようと考えられた5分の1の方々である。ここにおられる一人一人に対して、ほかの4人の方々は、明らかにこの神権会に参加するよりもさらに大切なことがあると考えられた。今晚ここに出席されたことについて私が先ほど述べた事項に、皆さんがどのように答えられたか私は知らない。しかし私には1つのことが非常にはっきりわかる。それは皆さんがここに出席したいと望まれたか、あるいは主が皆さんにここに出席するよう望まれたかのどちらかであり、また皆さんはそのことを喜ぶべきだということ

である。

「見よ、召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばるることなきはこれそもそも何の故ぞ。」主は私たちが選ばれない理由を述べられた。その理由はこうである。

「そは、人々の心甚しくこの世に属けるものの上であり、唯々人間の誉れを得ることをのみ望み、次の如き一つの戒めを知らざるによる。」ではこの一つの偉大な戒めとは何であろうか。これは皆さんの人生にとって最も大切な戒めの1つとなるに違いない。そしてこの戒めは直接神から来たものである。

「曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりての

み支配し運用しうるものなり、と。」

(教義と聖約121:34—36)

さて、皆さんがここに出席しておられることはすばらしいことである。皆さんは特別なの方々である。それ以上に主が皆さんにたった今から始めてもらいたいと思っておられることがある。教会にとってはすべての会員が必要である。これは皆さんのみならず、この集会で当然皆さんの隣に座るはずのここに出席していない4人の方々も必要であるということである。

救い主がその生涯において人々に繰返し教えられた1つの主題はすべての人が兄弟の番人であるということであった。これよりも大切な神権の責任はない。私の非常に好きな聖句の中にこれと似かよった事柄を違った形で述べているものがある。「……それで、あなたが改宗した時には、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(欽定訳ルカ22:32)

教会員としてまた神権を持つ者としての責任を受けないでは、だれもバプテスマの誓約や栄えある神権をその身に受けることはできない。

今日、世間では皆さん方の友人をそっとしておくようにと言っている。皆さん方の友人にも自分の意志に従って来る権利もあれば去る権利もあるのである。世間では皆さんが教会に参加するよう、あるいは神権会に参加するよう、また悪い習慣をなくすよう説得することは、皆さんの友人たちを欲求不満や不当な抑圧におとし入れることになると言っている。しかし私はここで再び主の言葉を繰返し申し上げる。皆さんは兄弟の番人であって、改宗したその時から兄弟を力づける責任がある



のである。

「しかし、監督、私はそのようなことをどう言ったらいいのか、またどうしたらいいのかわかりません。私は1人の執事定員会会長にすぎないのです。」皆さんはこのように言われるかもしれない。これに対して主は、私が命じることには、人がそれを為しとげるために前もってある方法が備えてあり、それでなくては、私は何の命令も人に下さないと答えておられる。また主は次のようにも言われた。「この故に、誠にわれ汝らに告ぐ。この民に向けて汝らの声をあげ、而してわが汝らの心に与えんとする思想を語れ。さらば、汝ら人々の前にあわて惑うことなかるべし。そは、汝らの言うべきことはその時その瞬間に与えらるべければなり。されど、われ一つの誠命を汝らに与う。すなわち、汝ら何事にまれわが名によりて宣ぶる事は、すべてに於て厳肅なる心、柔和なる精神を以てこれを宣ぶるべし。……汝らこれを為さば聖霊汝らに注がれて何事にまれ汝らの語るすべてのことを証せん。」(教義と聖約100：5—8)

この神聖な原則に従えば、普通の口頭による伝達以外で皆さんの友人に接触することができる。また聖霊の助けによるならば、皆さんの友人は心の底まで感動するものを得ることが出来る。皆さんの友人は立派な教会員のために備えられたすばらしい霊的な過程を通して確信を得るであろう。改宗者たちはこの過程を通じて教会を知るのであり、皆さんがたえず成長発展するための重要な霊的賜物となるのもこの過程なのである。

確かに教会はあらゆる会員を必要としている。無関心な会員のリストを作

ればおそらく長くなるであろうが、このことは大管長会が憂慮していることであり、主が憂慮しておられることでもある。

天には人々を目覚めさせるしるしや奇跡はない。主の業に関して人間はできる限り自分たちで努力するようにと神は初めより命じられた。これは永遠の原則であり過程である。「……あなたが改宗したときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」この務めは今晚ここに出席している私たちの上に大きくかかっており、その責任は長く大祭司の職にある人と同じく、ごく最近執事になった人にもあるのである。私は主としてアロン神権者に対して述べてきたが、言うまでもなく、あらゆる原則がこの偉大な業に携っている私たち全員に当てはまるはずである。

私は主がジョセフ・スミスに与えたもうた警告の言葉を述べてこの話をまとめたいと思う。主は次のように言われた。「われ一人に対して言うことは、万人に向かい言うなり。汝らかの悪魔に征服せられて、今居る所より立ちのかされざる様常に祈るべし。」(教義と聖約93：49)

「召さるる者は多けれども選ばるる者少なし。」創世の前から選ばれ召され聖任された私たちが敵の手によって「今居る所より立ちのかされ」としたら、これは何という悲劇であろうか。皆さんはそのようなことを許してはならない。サタンの手が届かない所で生活しなさい。私はサタンの手が届く所は限られていることを皆さんに約束できる。

サタンは義を宣言することはできない。我々一人一人に与えられたチャレンジは、まず自らを備えて兄弟たちを

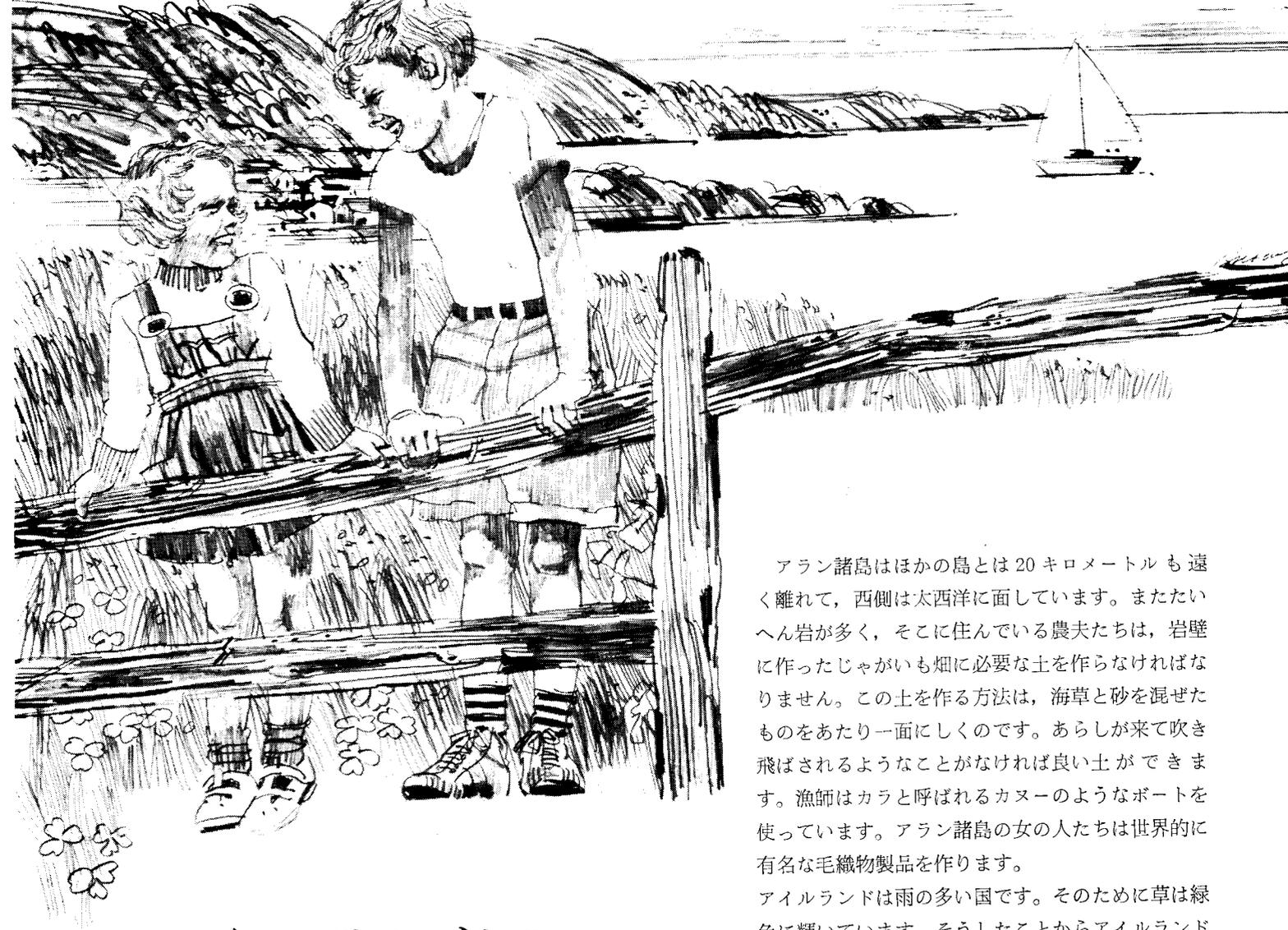
再び活発にすることができるように援助することである。願わくば我々が次の美しい聖句でうたわれている栄えある啓示に基づいて努力できるように祈るものである。

「……絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。然る時は、汝の自ら信ずること神の前に強くなりて、神権の教理は天より下る露の如くに汝をうるおさん。聖霊は常に汝の伴侶となり、汝の笏は真理と正義の変ることなき笏となり、汝の支配は永遠の支配となりて強いらることなく永遠に汝に流れ込まん」(教義と聖約121：45—46)

何というすばらしい約束であろう。また何という大いなるチャレンジであろう。皆さん方は特別な青年であろうか。確かにそうである。皆さん方は今晚ここに集われた忠実な5分の1の方々である。

皆さんは兄弟の番人であろうか。疑いもなくそうである。皆さんでなければ、だれが兄弟の番人であろうか。皆さんが神権者としてその務めを行わなければ、一体ほかのだれが行なうであろう。

皆さんは改宗者であるか。皆さんがそれを認められようとそうでなかろうと、おそらくほとんどの方がそうであろう。そして「あなたが改宗したときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」教会はすべての会員を必要としている。私は今晚この神権会に出席した1万人以上の忠実な神権者と共にこのことを始めたく思っている。そして私はそのことを謙遜に祈り、イエス・キリストのみ名により願ひ奉る。アーメン。



## アイルランドの お友だち

アイルランドはイギリス諸島の中で2番目に大きな島で、イギリスの西方にあり、ノース海峽とアイリッシュ海とセントジョージ海峽によってへだてられています。そして今、国土は北アイルランドとアイルランド共和国の2つに分かれています。アイルランドの西海岸の沖合いには、アラン諸島、ブラスケット諸島をふくむたくさんの島々があります。

アラン諸島の人々は、何百年前アイルランドのほかの地域でゲール語に変わって英語が話されるようになった時も、彼らの国語であるゲール語（アイルランド語）を守り続け、それを話していました。しかし、アイルランドの人々はほとんどアイルランド語を忘れてしまいました。そこで1919年に母国語はゲール語であると定められ、そして英語は第二母国語となりました。アラン島の人々の母国語を話す能力を増すため、いく人かのアイルランド人がそこへ行っています。

アラン諸島はほかの島とは20キロメートルも遠く離れて、西側は大西洋に面しています。またたいへん岩が多く、そこに住んでいる農夫たちは、岩壁に作ったじゃがいも畑に必要な土を作らなければなりません。この土を作る方法は、海草と砂を混ぜたものをあたり一面にしくのです。あらしが来て吹き飛ばされるようなことがなければ良い土ができます。漁師はカラと呼ばれるカヌーのようなボートを使っています。アラン諸島の女の人たちは世界的に有名な毛織物製品を作ります。

アイルランドは雨の多い国です。そのために草は緑色に輝いています。そうしたことからアイルランドは、「エメラルド島」とも呼ばれます。湖や川（ラフス）がたくさんあります。西から吹いてくるおだやかなしめった風は、羊や牛や馬のえさになる牧草を育てます。エメラルド諸島のどこに行ってもよく耕された肥えた農場にかこまれて、美しい白壁とわらぶき屋根の農家が見られます。

最も目につく景色の1つはアントリムのダンスブリックキャッスルに近い自然にできた巨大な道です。何千年も前に冷えた溶岩が3段に円柱の玄武岩の層をつくりました。

大西洋に沿う西海岸は海拔90mの絶壁が続きます。

アイルランドには偉大な戦いの遺跡や、種族の領界を明らかにするたくさんの岩の柱があります。これらは紀元432年より以前に作られたものです。その柱のいくつかには、母音にはV字型の刻み目を、子音には線を使って伝言が掘られています。これはオガム文字として知られています。

アイルランドはすぐれたリンネル製品とレースを生産することでも知られています。アイルランドの子供たちはイギリス本国の子供たちがするキッカライ（かくれんぼと同じ）やままごと遊びなどをします。



## うずらの群れ

メアリー・プラット・パリッシュ

絵：バージニア・サージェント

毎週木曜日に、ウインター・クォータースの人々は、郵便局として使っていた小さな丸太小屋に集まりました。郵便はノーヴー、ガーデングローブ、ピスガ山、カウンスルブルフス、それにウインター・クォータースに住んでいる聖徒たちがそれぞれ手紙の交かんができるようにというブリガム・ヤングの考えで始められました。毎週1人の男の人が特別な道を通してウインター・クォータースに郵便をとどけました。

木曜日、トミーとベッツィーはおかあさんやエリザやエライジャ、それにほかのたくさんの人といっしょに、郵便がくるのを待っていました。クレイトン兄弟が手紙が来た人の名前を読み上げたとき、トミーは自分の名前が呼ばれるのを聞きました。トミーは自分の耳を疑いました。手紙をもらうのは、生まれて初めてでした。トミーはふるえる手で封筒を開きました。うれしくて読めないほど心臓がどきどきしていました。それはまだノーヴーにいる友だちのジョセフからの手紙でした。

「トミー

ついにぼくたちはノーヴーを去ることになりました。ぼくたちは荷馬車やほかの必要なものを買うために、家と土地を売りました。君が行ってしまっただけのノーヴーは、住みよいところではなくなりました。いく人かの兄弟は穀物のとり入れのために市の領界の外に行きました。しかし

その人たちは暴徒たちにつかまりヒッコリーの棒でぶたれました。ここはもう危険なんだ！

大部分の人々は今までに川を渡って行きました。でもウインター・クォータースまでは行きつけなくてまだ川岸の低地でキャンプしています。これらの人々の多くは年をとっているか病気です。いく人かの人々は食料がありません。おかあさんはその人たちに助けが与えられればよいのと言っています。ぼくは2、3週間以内に君に会えるのでとてもうれしく思います。ぼくたちは川を渡ったらすぐにウインター・クォータースに向けて出発することになっています。おかあさんは、ぼくたちがそこへ行ったらたぶん学校へ行けると言っています。もしそうできたらうれしいと思います。

君の友だち、ジョセフ」

その夜雑用がすんでから、エライジャとトミーは、トミーのおかあさんと話しました。「ぼくはずっと、ノーヴーから川を渡って追立てられてきた人たちのことを考えているんだ。ぼくはその人たちに何かしてあげられたらと思うんだけど」とトミーは言いました。

「ブリガム・ヤングがきっとその人たちを助ける方法を見つけて下さるわ。でも今はもう寝る時間よ」とおかあさんが言いました。

次の日、トミーとエライジャが牛を集めている時、ベッツィーとエリザが走って来ました。「どうしたの。」トミーが大きな声で言いました。

「ううん」エリザがこたえました。「私たち、ブリガム・ヤングのことづてをもってきたの。今すぐあなたたちに来てほしいって。」

「どうして。」エライジャがたずねました。

「知らないわ。」エリザがこたえました。「でもあなたたちが行っている間、ベッツィーと私が牛の見張りをするわ。」

トミーとエライジャがブリガム・ヤングの小屋に着くと、トミーのおかあさんがそこで彼らを待っていました。ブリガム・ヤングは2人が入って行くと言話を始めました。「ねえ、君たち、私は2人にノーヴーから流れている川の上流にいる人たちのところへ荷馬車を引いて行ってほしいんだよ。そこにいるいく人かの聖徒は家を追われ、食料や着る物や住むところをととてもほしがっている。それで彼らをウインター・クォータースに連れて来てほしい。君たちはそのとても大きな仕事をするには若いけれど、君たちならうまくやれる。アレン兄弟が荷馬車隊の監督をして下さる。だから君たちは彼の

指示に従ってほしい。およそ20台の荷馬車で明日出発することになっているんだ。」

トミーのおかあさんは2人を見ました。

「私たちはだいじょうぶよ。」 おかあさんはほほえみながら言いました。

ノーザーへの長い旅は楽しいものでした。川に近づいたとき、トミーは空が暗くなっているのに気がつきました。そして勢いよく飛ぶ鳥の羽の音を聞きました。その時彼らは頭の上を何千羽ものウズラが飛んで行くのを見ました。たくさんの鳥が荷馬車のおおいの上や、荷馬車の御者台や、たずなを引く人の頭やうでにとまりました。

荷馬車隊の人たちがキャンプの中に入った時、地面の上や空中や、テントの中や人々の頭やうでなどにウズラがいるのを見ました。鳥はさわってもにげませんでした。病人でさえ手を伸ばして、少しもはむかおうとしないウズラをつかまえることができました。人々はそれをとっても喜びました。

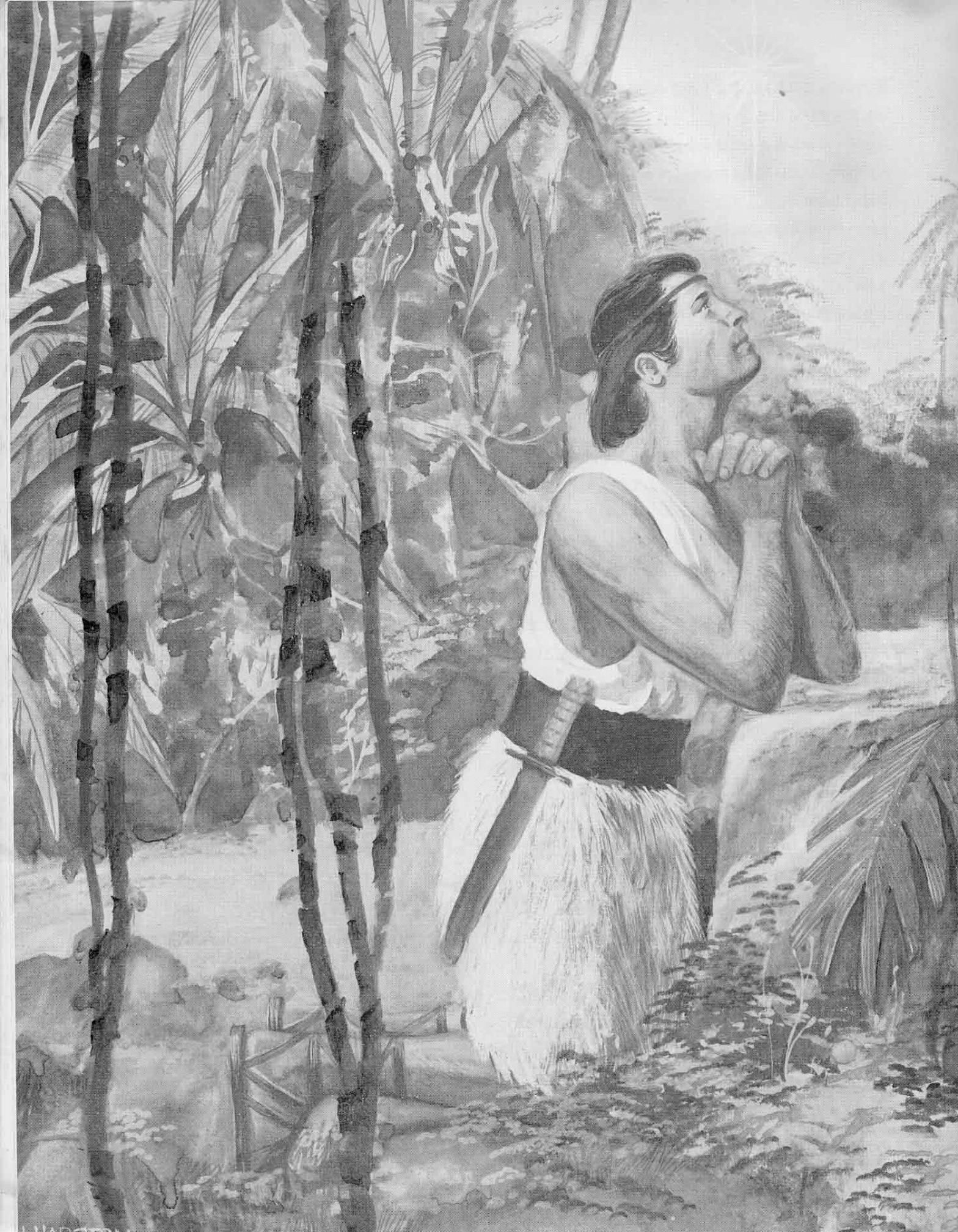
「これは天からの祝福だ」とキャンプにいた人の1人が言いました。「みんなうえている。主が私たちに食料をお与え下さったのだ。」

トミーはずっと昔荒野の中でさまよっていたイスラエルの子供たちに主がどうしてウズラをお与えになったかという話を思い出しました。

ちょうどその時ジョセフが走って来ました。ジョセフとトミーはだきあって喜びました。またいっしょにいられること、それにみんなが食べ物を得られたことは本当にすばらしいことでした。「奇せきだ！」ジョセフが叫びました。トミーはこっくりうなずきました。



Sargent



## ニーファイの息子

# ニーファイ

マーベル・ジョーンズ・ガボットによるモルモン経物語

絵：ジェリー・ハーストン

もしあなたがイエス・キリストがお生まれになる前、アメリカ大陸のゼラヘムラの地に住んでいたとしたら、あなたは予言者が述べたその長い長い日の不思議を信じたでしょうか。

ニーファイは信じました！

ニーファイは、レーマン人のサムエルが城へきよじ登り人々に大声で語った、救い主の誕生のしるしを待ち望んでいました。「もう5年もすると神の御子が降臨なさいます。そして次のことはイエス・キリストの降臨のしるしになります。二昼一夜があたかも一日のようになるでしょう。」

ニーファイが、過ぎ去った年のことを考えてみるとたくさんのことがありました。彼はすべての記録と、文字をきざんだ真ちゅう版と、リーハイがエルサレムを出発した時から守られ続けてきたすべてのものを管理するように言われていました。

たくさんのしるしと不思議なことを見、予言者の言葉は実現され始めていたにもかかわらず、たくさんの人々はなおまだ心をかたくなにしていました。

「キリストというような者が来るわけがない」とある者は言いました。そして彼らはうれしそうにこう言いました。「その時は過ぎた。そしてあなたの信仰はむだだった。」

しかしニーファイとその民の多くは、その長い日が来ることを固く信じて待ち望んでいました。このことは信じていない人々をますます怒らせました。彼らはずいぶん日を特に定めて警告を与えました。「救い主がエルサレムの地で生まれるという伝説を信じるすべて

の人々は、もしサムエルが言ったしるしが現われないとしたら殺されるであろう。」

ニーファイに、彼の民が悪いことをしているのを見て、心から悲しく思いました。彼は1人になることができるころへ行行って、地面にひれふして、救い主がこの地上に降臨するであろうという信仰により滅ぼされようとしている彼の民のために祈りました。ニーファイは1日中主に祈りました。

その時に主のみ声が彼に聞こえて、こう語られました。「汝の頭を上げ、そして元気を出せ。今夜しるしが現われるであろう。そして明日私は地上に降りたつであろう。」

その夜、日が入っても暗くなりませんでした。夜になっても暗くならなかったので、民は驚きました。そしてそれまで予言者の言葉を信じなかった人々も、それを信じ始めました。その夜は一晩中少しも暗やみがなく真昼のように明るかったのです。その翌朝、太陽はまたのぼりましたがニーファイと彼に従う人々はこのしるしによって主のお生まれになる日であることを知りました。また予言のように1つの新しい星が現われました。

このようなしるしが現われたにもかかわらず、いくつかの人々はなおまだ信じようとしませんでした。しかしニーファイは心から信じていました。その時からニーファイはイエス・キリストのみ名によって人々にバプテスマを施し、彼らを祝福しました。

そしてこのようにして、人々は再びその地に平和を取りもどしました。

# 小さな

## お友だちへ



十二使徒評議員会会員  
ボイド・K・パッカー

### 私たちは神さまのようになれる

私たちは長いあいだいなかに住んでいます。ですからにわとりや馬などの家ちくをかっています。にわとりはなやのまわりの庭を自由にあちこちかけまわります。ですから、たまごを見つけるのはたいへんです。よほどきをつけなければなりません。というのは、ほし草の中やたき木の下にたまごを生んだりするからです。

ある春の日、まだらもようの小さなめんどりは、だれにも見つからないようにかいばおけの下のところをすみかにしました。だれもそのにわとりがどこにいるのか知りませんでした。きつとどこかでたまごをあたためているにちがいないと思っていました。

ある日家に帰ると、子供たちが走ってきて、小さなめんどりを見つけたと私に話しました。たまごがかえって中から出てきたひよこがびよびよと小さな声で鳴き始めたのでどこにいるかがわかったのです。

子供たちは私をなやにひっぱって行きました。私はちゅうい深くめんどりのうしろに近づき手の中に入るような小さいひよこを持って出て来ました。子供たちは私のまわりに集まり、そのやわらかい小さなひよこをさわっていましたが、私の娘の1人が1わのひよこを手に取りそれをそっとやさしく両手の中に包みましました。

「大きくなったら、きつとすてきな番犬になるね。」





と私は聞きました。私がひよこは大きくなったら犬になるだろうと言ったので、子供は私の言っていることが、さっぱりわからないといったようすで私を見ました。

私は急いで言いなおしました。「それは大きくなったら番犬にならないね。良い乗馬馬になるんだよね」

彼女はまだわからないと言った様子で、私を見ました。彼女は4才でしたがひよこが犬や馬やましてキジや七面鳥になるわけがないことを知っていました。そして小さなひよこはそのおかあさんやおとうさんと同じかっこうのめんどりかおんどりになるということも知っていました。

すべての動物の子は親と同じ種類で子供は大きくなると見かけも中味も両親ににてくるというのは、世界中でいく度となくくり返されて教えられていることです。

それは人間についても言えることです。小さな少年や少女は大きくなり、そしておとなになり、ついには子供たちの親になります。

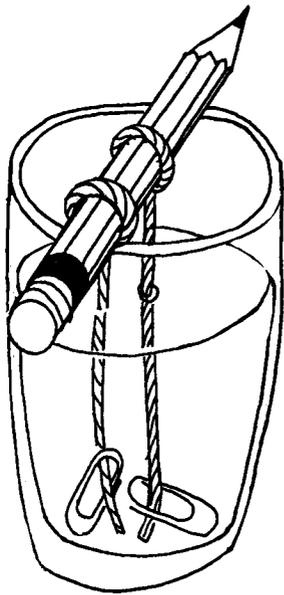
プライマリーや日曜学校や家庭の夕べで、神さまは私たちの霊のお父様であると学びました。

聖書の中でよく神様は私たちのおとうさまであると書かれています。また私たちは神様にお祈りするときこう言います。「天にいらっしゃる私たちのおとうさま。」

私は教会の子供たちに、神さまはほんとうに私たちの霊のおとうさまであるとあかしします。

としをとって天にめされるとき、私たちは神さまのようになれるというやくそくがあります。両親の模範に従うのと同じように、もし正しく生活し、神さまのいましめを守るなら、私たちは天のおとうさまのようになることができます。

イエス・キリストは次のようにおっしゃいました。「それだから、あなた方の天の父が完全であられるようにあなた方も完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)



## こおりざとうを つくりましょう

結晶にはたくさんの違う大きさや形のものがあります。科学者は結晶の形は原子が分子になる過程で決まると信じています。

さとうの結晶はたいていは拡大鏡を使わないと見えないほど小さいのですが、ここであなた方に氷砂糖を作る方法を教えましょう。

コップ1杯のお湯を入れたなべにコップ2杯のさとうを入れます。さとうが完全にとけるまでよくかきまわし、とけたら口の広い大きなコップにその液を入れます。2, 3本のきれいな木綿の

ひもをえんぴつに結びつけ、ひもが浮き上がらないようにそれぞれのひものはしにクリップを取りつけます。次にひもを溶液の中に入れ、コップの口の上にえんぴつを置きます。(絵を見なさい)

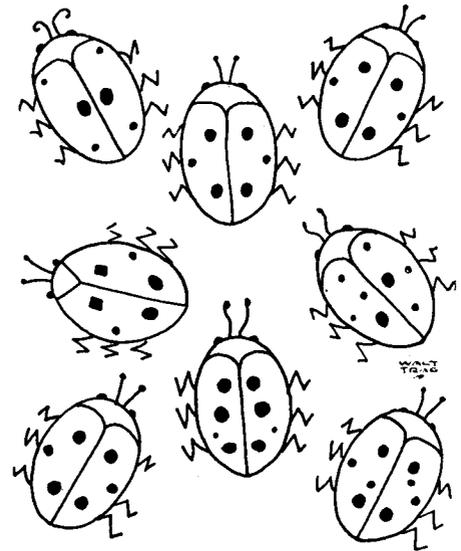
2, 3日後、ひもに小さなおさとうの結晶が付き始めます。大きな結晶ができるまで、そのままに放っておきます。もしさとうのかすが溶液の表面に浮かんできたら、それを取りのぞいて蒸発しやすいようにしましょう。

結晶が適当な大きさになったら手作りの「砂糖」が楽しめます。

## 同じものを見つけましょう

ウォルター・トラッグ

同じテントウムシをみつけそれに色をぬってください。



## 点パズル

キャロル・コナー

点から点に線を引いてごらんください。  
あなたは何を見つけましたか。



# 質 疑 応 答

この記事は、教会の教義を教えるためではなく、読者にとって参考となり何らかの助けを与えるためのものである。

インディアンやポリネシア人（その他の民族）は、立派な教会員となるために各自の文化を放棄しなければなりませんか。



世界のどこに行こうとも、教会を通じて素晴らしい友人たちに出会うことができます。また、どこにいても、まず私がしなければならないことは教会を捜すことです。そしてそこで、福音に従うことによって結ばれた多くの兄弟姉妹に出会うのです。この人々はインディアンかもしれないし、日本あるいはチリ、南アフリカ、フランス北米の人々かもしれません。しかし、最も大切なことは、彼らが教会員であり、主を愛しているということです。

人々が自分の生活に福音を取り入れる時には、例外なくそれによって成長できます。福音によって人生は変わり、より一層豊かになるのです。また福音は「徳高きこと、好ましきこと、よき聞えあること、あるいは褒むべきこと」と目される文化を放棄するようには私たちに要求していません。（信仰簡条第13条参照）

次の点を考える必要があります。

1. これはイエス・キリストの教会です。アメリカ人の教会でもユタの教会でもなく、万人の教会であり、国籍と人種をこえたものです。救い主はこの点をはっきりさせておられます。

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのこを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」（マタイ28：19-20）

1971年8月、英国マンチェスターの地区総大会での説教で、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこれに関してはっきり述べています。

「学識ある人々が、我々をアメリカのロッキー山脈に住む奇妙な集団と考えた時から長い期間が過ぎた。教会の本部がソルトレーク市にあり、そこに主の家が建立され……しかし、今我々は、1つの教会、1つの民として数えられる時代に至った。……また、人の子の再降臨の前に、あらゆる国々において福音を宣べ伝えるのみならず、我々は人々の中に改宗者を立て、聖徒の集會を持つであろう……我々の教会は世界の教会であり、これからもそうなるであろう。それが我々の定めである。」

スミス大管長は、英国の聖徒たちがその地で増し、繁栄するように祝福を加えました。

2. 私たちの文化について主は「世にあって世のものとならない」ように望んでおられます。ほとんどの民の背景と文化の中には多くの素晴らしい、人々を教化する伝統があります。また、忘れ去った方が良い伝統や風習も幾つかあります。悪から離れて善に近づくのは、キリストの教会に属する者の責任です。そこで、良い伝統を私たちの生活の中に留め、あるいは進展させ、福音の原則に反する悪い伝統から離れなければなりません。

私たちは、福音を受け入れても、自分の国を離れたり、文化を放棄したりする必要のないことを覚えておかなければなりません。

「主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。」（ミカ6：8）

これに非常に関連のある次のような戒めがあります。「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。」（出エジプト20：12）これは直接の両親を敬うことを意味するだけでなく、先祖や国民の世話をし、彼らに尊敬の気持を示すという意味も含んでいます。

もちろん、彼らを敬うことの一部として、彼らについて知り、生活の中の良い点をまね、また彼らが福音の祝福を十分に享受できるように系図と神殿の仕事を進めることがあります。

すべての国民は天の御父の子供です。私たちは皆、世にとっても私たち自身の文化にとっても良い感化を及ぼすように努めなければなりません。世界中に福音を広めるために、教会員は自分の住んでいる地域と文化の中でふさわしい模範を示す必要があります。

フランク・M・ブラッドショー  
祭司定員会指導教師  
セミナー・インスティテュー  
ト管理補助

# 若いときに主に仕える

これらの聖句は、若者が主に仕えることに関する多くの実例を示している。その中で最もすばらしいものは、イエスがエルサレムの宮の中で、教師たちを驚かせたときのことである。「彼らの話を聞いたり質問したりしておられ」たイエスは、このとき12歳であった。「聞く人々はみな、イエスの賢さやその答に驚嘆していた。」(ルカ2:46-47)

このほかにも多くの例がある。ノアは「メツセラの手によりてノアの神権を受けたるは十歳の時」であっ



ノア

た。(教義と聖約107:52)

「さて、メルケゼデクは正義を行なった信仰の人であった。幼き時、神を恐れ、ししの口を封じ、猛火を静めた。」

「このようにして神に認められ、神がエノクと交した誓約の秩序に従って大祭司に按手聖任された。」(霊感訳創世14:26-27)

ヨセフは17歳のとき、エジプトに売られ、そのときすでに主からの夢を見

ていたのであった。(創世37:1-8 参照)

「……サムエルはまだ幼く、……主の前に仕えていた。……わらべサムエルは育っていき、主にも、人々にも、ますます愛せられた。」(サムエル上2:18-26) 「サムエルはまだ主を知らず、主の言葉がまだ彼に現わされなかった。」しかしある夜、主はサムエルを呼ばれたので、サムエルは言った、「しもべは聞きます。お話しください」(サムエル上3:7-10)

ダビデはイスラエルに戦いをいどん



サムエル

できたペリシテびとのゴリアテという巨人と戦うことを申し出たが、サウル王はダビデが年少のため迷っていた。そこでサウルは言った。「行って、あのペリシテ人と戦うことはできない。あなたは年少だが、彼(ゴリアテ)は若い時からの軍人だからです。」しかしダビデは容易にその勇気を捨てず、以前にししとくまを殺したことを話して抗議した。ダビデは言った。「ししの

つめ、くまのつめからわたしを救い出された主は、またわたしを、このペリシテびとの手から救い出されるでしょう。」(サムエル上17:33-37)

リーハイの息子のヤコブは早くから義の道を歩んだ人である。リーハイは喜びをもってこう語る。

「汝は若い時にすでに贖い主の栄光を見たから、汝は贖い主が肉体で世に出たもう時に主から親しく導きと恵みを受ける人々のように幸福である。」(Ⅱニーファイ2:4) ニーファイは弟ヤコブの霊的性質を次のように強調して



ヨセフ

いる。「私の弟ヤコブもまた、私が見たと同じように贖い主を見た。」(Ⅱニーファイ11:3)

ヒラマンの2千人の青年の勇士は、主の祝福に満たされた強い信仰でよく知られている。

これらの青年について、聖典では次のように言っている。

「かれらはみな青年であって筋骨たくましく活潑な勇士であったばかりで

## ロバート・J・マシューズ

なく、いついかなる時でも委ねられたことを忠実に行った。」(アルマ53:20)

「わが子らはまだ戦ったことがなかったが死ぬことを恐れず、自分の命よりも親の自由を重んじ、また疑いを抱かないならば神が必ず自分らを救いたもうとその母から教えを受けていた。」(アルマ56:47)

「……かれらは年は若いとその心は堅固であってたえず神に頼っている」(アルマ57:27)

「……みな非常に若かったから…」



ダビデ

(アルマ56:46)

予言者モルモンは次のように述べている。

「私はもう十五歳になって真面目な方の性質であったから、主が私を訪れたもうて私はイエスが恵み深くましますことを味わって知ることができた。」(モルモン1:15)

「その時私はまだ年が若かったが身のたけが高かったから、ニーファイの

民は私をその全軍の司令長官に任じた。」

「そこで私は十六歳の時、ニーファイ人の一軍を率い、レーマン人に向けて出陣をした。……」(モルモン2:1-2)

ジョセフ・スミスはわずか14歳の時に、最初の示現を受けた。彼は後にこれらの事柄を書き留め、自分自身が若かったことを述べている。「……年もゆかず世故にも長けていない者……私は一介の名もない少年であった。たった満十四歳を超えた年齢の少年でしか



モルモン

も生活状態から言っても何ら世間で取るに足らぬ程の者であった……。」(ジョセフ・スミス2:8, 22)しかし主が彼を通してなされたみ業は、イエスのみ業の次に大切なものであった。(教義と聖約135:3参照)

パウロは若い友人のテモテに次のように言っている。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ……信者の模範になりな

さい。」(Ⅰテモテ4:12)「そこで、あなたは若い時の情欲を避けなさい。そして……義……を追い求めなさい。」

(Ⅱテモテ2:22)パウロは次のような理由から、テモテをほめたのである。「幼い時から、聖書に親しみ、それが……救いに至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。」(Ⅱテモテ3:15)

知恵ある人というのは必ずしも年をとっているとは限らない。エリフはそれを次のように述べている。「老いた者、必ずしも知恵があるのではなく、



ジョセフ・スミス

年とった者、必ずしも道理をわきまえるのではない。」(ヨブ32:9)またアルマはこのように言っている、「またたびたび賢人や博学の人の知識も及ばない御言葉を子供に与えたもう。」(アルマ32:23)

絵：ディール・キルボーン

山田竜之助が良い末日聖徒ということについて考えたことがあったとしたら、自分自身がそうであると考えたであろう。竜之助は、必ずしも毎週教会に出席しているわけではなく、また日の栄の王国を受け継ぐに必要なすべての戒めを守ることはできなかったが、福音が真実であるということに関しては大きな確信を持っていた。

ある日曜日の午後、居眠りの最中に非常に奇妙な夢を見なかったとしたら、おそらく竜之助は、自分は真面目な普通の会員と同じだと思いつけていたことであろう。またおそらく過去50年間で全く変わらずその後の人生を過ごしていたであろう。

竜之助は人好きのするのんきで気のいい男であった。顔には長年戸外で過ごしてきたために深いしわが刻まれ、かつてつややかで黒かった髪もすっかり白くなっていた。黒々とした目は日に焼けた顔の中で明るく輝き、笑うと一層よく光った。それは竜之助が何事に関してもめったに心配することがなかったからであった。

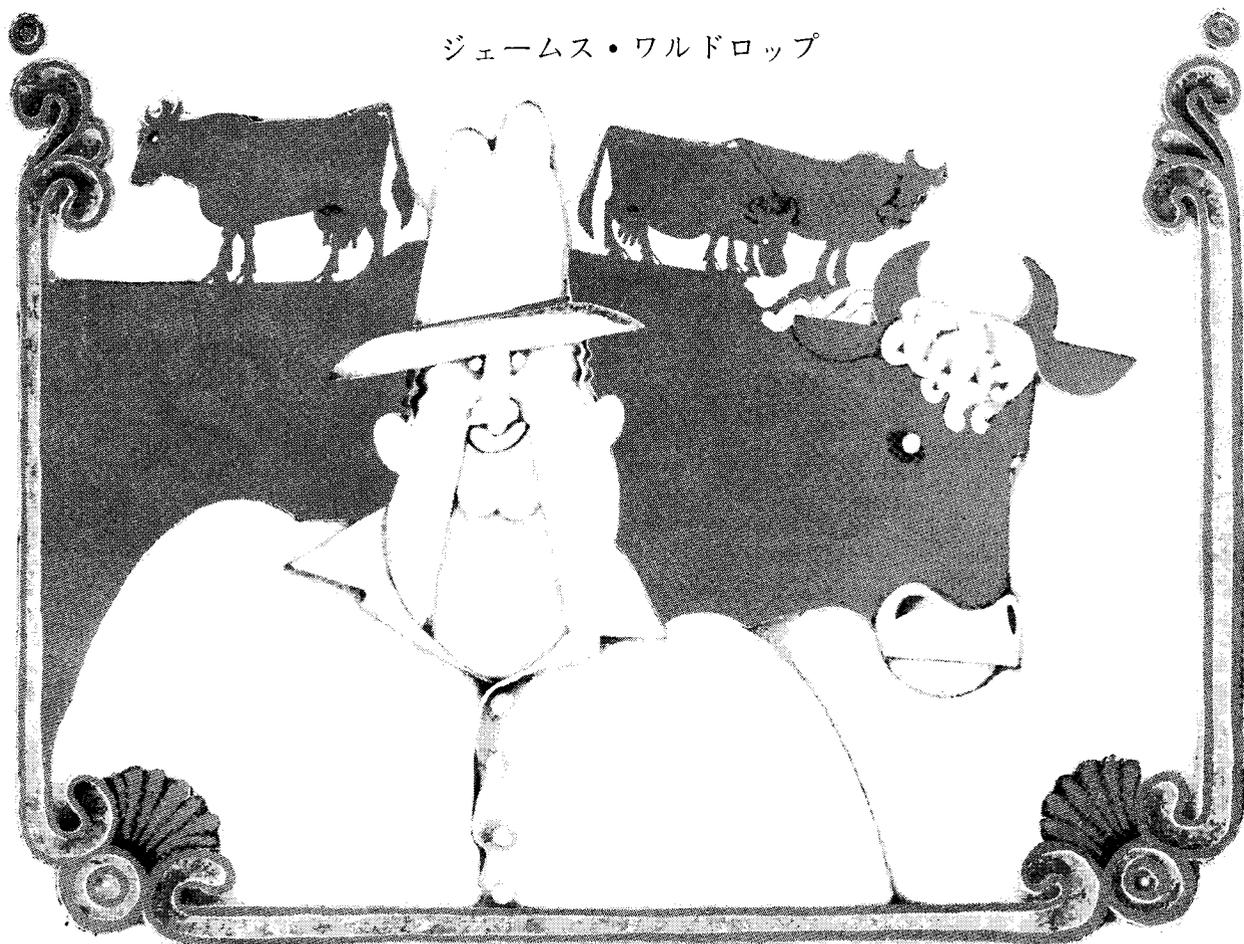
山田竜之助はうわべから見れば、あらゆる点で成功していた。彼の酪農場は繁盛していたし、この酪農製品はかなりの安定した市場を得ていた。しかしこのように成功していたにもかかわらず、すべての人たちがそうであるようにある点で失敗していた。つまり竜之助は物事を先延ばしする性格であ

## やがて受け継ぐべき王国

現代の童話

物事を先延ばしする人（とそうでない人）のための寓話

ジェームス・ワルドロップ



った。

竜之助の考えていることは一般的に言って立派であったが自分の属している教会の責任に関して深く考えておらず、怠惰で改めなければと考えることが多かった。たとえばあの奇妙な夢を見る前の週、彼は監督から新しい礼拝堂の建築に従事するよう求められていた。けれども彼はそれをせずに、修理しなければならなかった自分の農場の柵を数カ所直したのであった。

竜之助は自分のワード部を助けようと真剣に考えていた。そして事実翌週に建築を手伝う計画をたてた。しかし監督は前の経験から、もう一度頼んでも竜之助はほかのことをしだすだろうと思った。

竜之助はそのような性格のために神権の昇進ができなかった。これまで50年間たってもまだ長老になっておらず、これからののであった。竜之助は数年間、神権昇進の妨げとなる習慣をやめようとしてきたが、どういうわけかやめることができなかった。

数年前竜之助は什分の一を納めようと決意した。しかし一向に実行しなかった。また竜之助は妻のキクに3人の子供たちと神殿で結び固めを受けることができるように、家族の生活を正しいものにしようと約束していた。

また竜之助は先祖の記録を集めて神殿の儀式を施してもらうことができるようにしようと真剣に考えたことがあった。そして実際その計画を始めてかなりのところまで進んだが、仕事やその他の活動のためにまた脇道にそれてしまった。

このように山田竜之助は、あの奇妙な不安な夢を見る日曜日まで、一度決意した事柄を遂行する意志に欠けていた。

その朝初めて竜之助はひさしぶりに日曜学校に出席していた。そして友人の長井義秀がクラスで述べたことについて少しばかり考えさせられた。その日午後遅くキクが隣りの家に行っている間、竜之助はお気に入りの椅子に座ってモルモン経を読んでいた。そしてくつろいで次の聖句の意味を考えているうちに眠ってしまった。

「私は前にあなたたちに話したように、あなたたちに証を立てた人々は非常に多いので、私はあなたたちがこの世を去る時まで悔改めを引き延さないようにねごろにすすめる。永遠の来世に行く準備ができるように私たちに与えられている現世の生涯の光陰を有益に用いなかったならば、後から夜のような暗やみの生涯がやってきてそこに入ったら何の働きもできるはずがない。あなたたちは、このおそろしい危機に陥ってから『私は悔い改めて私の神に立ち帰る』と言うことはできない。あなたたちは本当にこう言うことはできない。なぜならば、あなたたちがこの世を去る時あなたたちの肉体

を離れる霊は、永遠の来世に於て再びあなたたちの身体に宿る力を持っているからである。」(アルマ34：33—34)

竜之助は気持ちよく眠ることもぐっすり眠ることもできなかった。そして現世での生涯が終わって来世へ召されている夢を見た。その時竜之助は将来の自分の家の所まで案内人の護衛を受けて行った。その案内人は気持ちのよい人で、白いひげがゆれてこの世の人とは思えない姿をしていた。けれども竜之助はその人の目にかすかに悲しげな表情が浮かんでいるのに気がついた。それが失望から来た悲しみなのか、そのほかの悲しみなのか竜之助にはわからなかった。そしてその案内人は自分たちが今行こうとしている王国に自分が長く住んでいることを告げたが、そのほかのことは一切何も言わなかった。

ついに2人は竜之助が受け継ぐことになっている王国の扉のところへやってきた。その美しさは筆舌に尽くしがたい、竜之助が今まで想像したこともなかったほどのもので、金や銀あるいはダイヤモンドやルビー、その他の高価な宝石で縁どられていた。竜之助はすっかりおじけづいてしまったが、その美しい扉を入っていった。

けれども竜之助は最初の有頂天の状態から我に帰ると、扉のちょうつがいの1つが壊れて扉の中央がひどくたわんでいるのに気がついて驚いた。そこで竜之助が案内人にどうしてこのようになっているのか尋ねると、案内人は心配することはない、いつかとり付けられるから、と言った。

王国に入ると竜之助は今まで見たどこよりも凝った作りの庭園を通り抜けた。金縁の壁を見ながら、竜之助は修理しなければならない箇所がいくつかあることに気がついた。竜之助がもう一度案内人にこのことを尋ねると、案内人はまたいつか塗装されるだろう、と言った。

ついに2人は王国で竜之助が受け継ぐことになっている家へやってきた。竜之助が自分の家となる一画へやってくるとその顔が喜びで輝いた。きっと地上にいたどの王もこのような優雅な場所に住んだことはなかったであろうと思われるほどであった。

竜之助が中に歩いていくとその美しさ、すばらしさは目もくらむほどであった。けれども自分の家に全く屋根がないことに気付いた時竜之助は驚いた。案内人は竜之助が質問しそうな事柄を予想しながら、「ああ、心配することはありませんよ。私たちはいつかあなたのお住まいに屋根をつけますから」と言って竜之助を納得させた。

ちょうどその時竜之助の伯父の三郎がそばを通りかかった。2人がなつかしさに抱き合った後、竜之助は伯父に屋根を取り付けるのを手伝ってはくれませんか、と尋ねた。伯父



はそのうちに手伝おうと言った。伯父のこの答えを聞いて竜之助は、これから長く雨が降らなければいいがと思った。

伯父の三郎は、自分はこの王国に住んでいるわけではなく訪問としての滞在が許されているのだと語った。そしてまもなく伯父は自分の王国へ帰っていった。

竜之助は1人になると意気消沈して、横になって休みたくなった。そこでベッドに近づくと、何も言えず目を見張ってしまった。そのベッドはスプリングさえ黄金できていたのだった。ところがそのベッドにはマットレスがなかった。扉のところ走り寄って通りがかりの人に言葉をかけたが、心配することはない、そのうちにマットレスももらえるからと言われた。

竜之助はこのようすべてにいらいらしたが、いろいろな不満をどうでもいいと思い始めた。そして自分のガタガタになった神経を鎮めるために、金の湯ぶねを使おうとした。しかし、何と水道の蛇口が取り付けなかったのであった。

この時には竜之助は不気嫌になっていて、自分の哀れな様を考えると、台所にも行って何かちょっとでも食べればいらいらした気持をなくすことができるだろうと思った。そこで台所の方へ歩いて行って見て、竜之助は目をみはった。あらゆる椅子が個々にテーブルのついた王座のように作られていたからであった。

とうとう竜之助はこの国にも完全なものがあることに気づいた。竜之助は自分の考えつく一番ぜいたくな料理を注文し出されるごちそうを期待して舌なめずりした。しかし給仕は竜之助の注文に驚いて言った。「おや、ここには食べ物は何もありませんよ。そのうちにできるとは思いますけどね。」

この言葉を聞いて竜之助はくすぶっていた怒りを抑えることができなくなった。そして門のところへゆっくり歩いて行くと、門番に向かって「恐ろしい間違いだ。私はこんな怠惰な不完全な王国には決して属していないはずだ。」とおうへいに言った。

すると門番は自分の帳簿を見て、「間違いございません。あなたの名前がここに書いてございます。」と言った。

竜之助は不愉快な声で、「もし自分がここに来ることになっているのなら、なぜ王国ではその準備をしておかないんだね。」と尋ねた。

すると門番は次のように答えた。「竜之助さん、私たちはあなたのために準備したのですよ。私たちはあなたが地上におられる間に作られた青写真そっくりに、ここにあるすべての物をあなたのために作りました。今のあなたに対して私たちはどうすることもできません。あなたは地上におられる間あらゆる事柄について、いつかはしようというふうでいらっしゃいました。ですからあなたはいつか王国になるだろう、という王国を受け継がれたのです。あなたが気に入らなければ御同情致しますが、私ができることと言えばそれだけしかないんですよ。私たちは作り直すことはできないのです。あなたは青写真をお作りになりました。あなたがお選びになったのです。私たちがあなたのために選んでさし上げることはできませんからね。私たちはここで青写真を作ることはできないんです。ただ送られてきた青写真に従って作ることはできないんですよ。」

山田竜之助は恐怖に震えながら目を覚ました。暑い日ではなかったが、竜之助は体中に汗をかいていた。家に帰ってきたキクは夫の態度が全く変わっていることに気がついた。

数日間、数カ月間、そして数年間も、近所の人たちは竜之助の生活が完全に変わってしまったことに非常に驚いた。竜之助は今までと違ってあらゆる事柄に厳しく取り組むようになり、教会で勤勉に働くようになった。また什分の一を納め系図も調べるようになった。また家族を連れて神殿に行き、結び固めの儀式を受けた。

やがて竜之助は監督として支持された。竜之助の特別な能力は、自分のなすべき仕事を手際よく片づけ、人が人生の重要な事柄を先延ばししないように励ますことであった。



## 世に 対する証

七十人最高評議員会会員

ハートマン・レクター・ジュニア

兄弟姉妹そして友人の皆様、私は主イエス・キリストのみ名により皆様方に歓迎のことばを述べるのでできる特権を光榮に思う。我々は主のみ名により集まっている。主のために、我々は今ここにいる。そして、もし真に価値あるものであれば、我々がこの人生において行なうすべての事柄は主からもたらされるのである。

我々はキリスト教徒であり、私たちがキリスト教徒であることをあまねく世の人々に知ってもらいたいと望んでいる。時々、我々はキリスト教徒ではないと非難されることがある。しかしこのようなことは問題ではない。偉大な予言者ニューフェイスは次のように言っている。「私たちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストの徳とを説教し、キリストのことを予言し、また私たちの子孫にどこに罪の赦しを求めるかを知らせるために自分たちが予言したことも書くのである。」(第Ⅱニューフェイス25:26) 私たちはキリストを信仰の導き手であり、またその完成者として仰ぎ見ている。キリストは私たちの贖い主である。

時の絶頂の神権時代、イエスが肉体を持ってこの世に旅しておられることを知っていた使徒や予言者や聖なる人々を基として教会が建てられたのである。このような人々はキリストの教えを受け入れた。イエスは彼らを聖任され、人類の救いに関するすべての業をイエスに代って行なう権能を与えられたのである。イエスはご自身が長くこの地上にとどまることができないことを知っておられ、次のように言われた。「……人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである。」(マタイ20:28)

このために主は、主がおいでになる天から直接知識を受けて、この地上にいる人々を教える者を必要とされたのである。このような知識は啓示として知られており、啓示を受ける人々は神の予言者と呼ばれる。教えと導きを施し始められた頃、イエスは死すべき世にあってご自身と共にいる12人の特別な証し人を選ばれた。しかし、十字架上で亡くなられた後、イエスは啓示に

よって、死すべき世にありイエスを知らなかったと思われる他の人々を選ばれたのである。確かにパウロはそのような人々の1人である。

しばらくの間、そのように人々が教会を管理し、教会の業務上の問題を処理した。しかし、時を経るに従って、教会は墮落してきた。会員は靈感ある十二使徒の勧告に従うのを拒んだのである。パウロは彼らを教会に戻らせようとしてたくさんの手紙を書いた。そして、迫害が次第にひどくなり、予言者であった使徒たちは殺され、地上から取り去られたのである。使徒たちが殺された後、啓示の光は消えてしまったのである。世の歴史でさえもこの時期を暗黒時代と記録している。

しかし、古代の使徒や予言者たちが予言していたように、夜が明けて神は再び天から語りかけて今日新しい予言者を召されたのである。彼はまだ15歳の若者で、その名はジョセフ・スミス(二代目)と言った。1820年、神は大いなる示現の中で彼を訪れたもうた。神は天からジョセフ・スミスに語りかけられ、彼に戒めを与えられた。また



神は他の人々にも、そのようなことをあまねく世に示すべきこと、また予言者たちにより語られた以下のことがすべて成就することを宣言するようにという戒めが与えられた。

「すなわち世の弱き者たち出で来り。人その同胞を議りまた肉の権力に依り頼まざらん様力ありて強き者たちを打ち破らん。されどこは、あらゆる人々主なる神すなわち世の救い主の名によりて語らんため、信仰もまた世に高まり、わが永遠の誓約は確立せられ、完全なるわが福音、弱き者たち単純なる者たちによりて世界のいやはてまでも宣べられ、また王と統治者との前に宣べられんがためなり。」(教義と聖約 1:19-23)

我々はプロテスタントではない。なぜなら、いかなる人にも、またいかなる団体、組織に対しても抵抗していないからである。私たちは他の教会と口論していないし、また他の教会に反対するパンフレットも宣伝も出していないし、これからも決してそのようなことはしないであろう。なぜなら、我々は人々の信仰心や信念をかき乱すのではなくむしろ築き上げるのを旨としているからである。

プロテスタントの友人たちやただ信

仰を通じて神の恵みにより救われると信じている多くの人たちに対して、我々は次のように言う。「私たちはあなたがたが信仰を重んじておられることを知っています。そして私たちもそれを信じています。信仰がなくては神に喜ばれることはできません。また、ただ単に信仰だけでもいけません。そこには受けなければならない一定の儀式があり、有しなればならない権能があります。そこで、互いに論じようではありませんか。イエス・キリストの完全な福音を分ち合おうではありませんか。」

これは主の教えに一致している。主は彼らの宗教をとがめ、破壊するために来られたと思っていたユダヤ人たちに対して、主はこう言われた、「わたしが律法や預言者を廃するためにきたと思ってはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。」(マタイ 5:17) そして再び、主は彼らの義の行ないに対して特に誤ちを指摘されなかった。なぜなら主は、「それもしなければならぬが、これも見のがしてはならない。」(マタイ 23:23)と言われたからである。それで私たちもプロテスタントの友人たちにそ

のように言おう。

聖餐によって神の恵みを受け、救われると信じているカトリックの友人たちに、次のように言う。「私たちは、あなたがたが聖餐と儀式を重んじておられることを知っています。私たちもこれを信じています。主は、『だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。』(ヨハネ 3:5)と言われませんでしたか。」施す権能を持った者によりバプテスマを受けることが救いの根本です。

「しかし、福音の儀式を受けただけでは救われません。信仰に基いた行ないが必要です。そしてこれはあなたが示さなければなりません。また、行なわなければならない業があり、主のみ名により正しく執り行なわれるために持たなければならない権能があります。この権能はただ生ける予言者を通してのみもたらされるのです。それでは、イエス・キリストの完全な福音について話し合おうではありませんか。私たちはあなた方が持っておられる真理を奪ったりしません。私たちはあなた方が持っておられるものにつけ加えるだけです。私たちは愛のうちにこれを行ない、強制や無理じいはしません。ただ愛と犠牲のみが人々に真理を



もたらずからです。」

現在、私たちは世界中の数多くの宗教を分類し、その各々の教会の最も良いところを取り出してきているように思われているようである。しかし、そのようなことはない。私たちが教えている原則は聖書の中に教えられている。そして聖書は神がご自身の民、特にヘブル人とユダヤ人に与えられた教えの記録である。この教会は、（教会が組織された）1830年に聖書がすべて破壊されていたとしても、今日あると全く同じように組織されたであろう。

末日聖徒イエス・キリスト教会は「末日聖徒」という言葉で表わされているように、時の絶頂の神権時代に主が組織された教会と区別されている。そのような原則は聖書からもたらされたのではなく、現代の予言者ジョセフ・スミスを通じて神からの啓示を通してもたらされたのであった。

我々にはすべて世に住む善良な人々にあまねく知らせなければならないメッセージがある。主は、心の正直な人々によるこぼしき訪ずれをのべ伝えるよう私たちに命じておられる。主は次のように言われた。「……訪ずれを宣ぶるに山の上、あらゆる高き所、また会い見るを許されたるあらゆる人々の

中に於てすべし。」

さらに主は次のように命じられた。「また、このことを為すには全くへりくだりてこれを為し、われを信頼し、そしる者をそしり返すことなかれ。汝は様々の教義を談ずることなくして、悔改め、救い主を信ずる信仰、パプテスマによる罪の赦し、および火すなわち聖霊による罪の赦しを宣ぶるべし。」（教義と聖約19：29—31）

私たちは神のため、また同胞のために愛を持って進み行き、人々に回復された真理を聞き入れるようこれをのべ伝えているのである。現在、世界中に教会の伝道地があり、15,000人のフルタイムの宣教師たちが自分の時間と才能と財力を惜しまず、自費で同胞にこのメッセージをのべ伝えている。

「この末の世の弟子たちは進み行けど、一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ、彼らに命じたればなり。」（教義と聖約1：5）

再び主は言われた。「……主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし。目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし。」（教義と聖約1：2）これは希望のメッセー

ジである。なぜならば、天父なる神は生きておられ、祈りを聞き、応えられまたイエスはキリストであり、イエスも生きておられることを我々に宣言しておられるからである。

主は全人類のため、また心ある人々のために今日、再び地上にご自身の教会を建てられた。そして、主は特別な証し人を召され、彼らを聖任して、このメッセージを聞く人々、選民を集めるために真の福音をのべ伝えるようつかわされた。

我々にはイエス・キリストの完全な福音がある。福音がこれほど必要な時代はないと思われる今日、福音が私たちに与えられているということは非常に恵まれていると言わなければならない。主は我々に、主であり救い主であるイエス・キリストの指示のもとに教会と神の王国における重要な決定を今なお下している、生ける予言者が与えられているのである。

私は皆様方に愛と福音と最も深き慈愛の気持を残し、へり下ってこれらのことを証する。私たちは、皆様方を愛し、皆様方を必要としている。これらのことを私たちの主であり、救い主、贖い主なるイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

# 平 和

最後の晩餐が開かれたエルサレムにあるかの二階の部屋で、イエスは弟子たちに重要な教えを与えられた。弟子たちに教えられた数多くの教えの中でイエスはこのように言われた。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

イエスは再び次のように言われた。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16:33)

今日、平和という言葉はよく使われる言葉である。私たちはこの言葉を新聞、雑誌、あらゆる方面において見聞きしている。確かに人々は平和を探し求めて世界中をあちこちへと走り回っている。私たちはこの言葉を一種の現代的なあいさつであると考えているが、実はこれは人類の歴史に勝るともおとらず古いのである。

聖書に出てくる地に住む人々はいつでも互いに、「平和があるように」とか、「共に平和がありますように」と言ってあいさつをかわしてきた。しかし、地上にあるこの小さな地域では、人々は常に、支配者の圧制のもとに戦争や幽閉、束縛によって引き裂かれてきたのである。キリストの時代、彼ら

はローマ帝国の支配下にあった。

従って自然に、ユダヤ人は「贖い主」、「救い主」を期待し、彼が自分たちを束縛から解き放ってくれると思うようになったのである。イザヤは次のように記している。

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』ととなえられる。」(イザヤ9:6)

聖地と呼ばれたこの地には平和はもたらされなかった。今日でさえも、古い戦車やその他の武器の残骸が道の両わきにさびついて放置されている。常駐の兵士たちが国境に沿って油断なく見張っている。世界のどこをとってみても平和はないのである。しかし、山上の垂訓でキリストは平和について教えられ、次のように言われた。「平和を作り出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。」(マタイ5:9)

イエスは弟子たちに話しておられる時、次のように言われた。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

キリストが言われた平和とはどのようなものであるうか。私は、キリストご自身の行ないがその意図されたこと

を説明していると考える。

最後の晩餐の後、キリストが使徒たちに教えられた時のことをヨハネは次のように記している。

「イエスはこれらのことを語り終えて、弟子たちと一緒にケデロンの谷の向こうへ行かれた。そこには園があって、イエスは弟子たちと一緒にその中にはいられた。イエスを裏切ったユダは、その所をよく知っていた。イエスと弟子たちとがたびたびそこで集まったことがあるからである。さてユダは一隊の兵卒と祭司長やパリサイ人たちの送った下役どもを引き連れ、たいまつやあかりや武器を持って、そこへやってきた。しかしイエスは、自分の身に起ろうとすることをことごとく承知しておられ、進み出て彼らに言われた、『だれを捜しているのか』彼らは『ナザレのイエスを』と答えた。イエスは彼らに言われた、『わたしが、それである。』イエスを裏切ったユダも、彼らと一緒に立っていた。イエスが彼らに『わたしが、それである』と言われたとき、彼らはいくら引きさがって地に倒れた。そこでまた彼らに、『だれを捜しているのか』と、お尋ねになると、彼らは『ナザレのイエスを』と言った。イエスは答えられた、『わたしがそれであると、言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちを去らせてもらいたい。』」(ヨハネ18:1-8)

皆様方はこの冷静さ、平和な態度をまねることができるだろうか。彼らが

## 大祝福師

エルドレッド・G・スミス

殺そうと思ってイエスを捕えにやってくる時、イエスは、「わたしはここにいる。私を連れて行きなさい。だが私の友だちは去らせてほしい」と言われたのである。

それからイエスがピラトの前に立たれ、厳しい尋問の圧力のもとに立ておられた時にも、ピラトはイエスを怒らせることはできなかった。全き平和の中であってイエスはピラトの尋問に答えられたのである。ピラトはイエスに何の誤りもないことがわかった。

イエスが十字架につけられ、後に復活された時、弟子たちに語られた最初の言葉は、「安かれ」(ヨハネ20:21)であった。

私たちは歴史を通じて安らぎの秘けつを捜し求めているながら、これを見つけないとどうということであろうか。これはすなわち、私たちはだれかが自分たちのために平和を作り出してくれることを期待しているからであると私はあえて申し上げる。エドナ・セント・ビンセント・ミレーは次のように言った。「神と共にあり心に平和があるところ以外、今日この地上に平和はない。……自分自身に平和がない人は、隣人とうまくやっていくことはできない。……」(「真夜中の会話」ミレー選集より)

皆様方には、隣人が芝生の手入れをするのを手伝って心に平安を覚えたという経験はないだろうか。隣人がくだものをもぎ、作物を収穫するのを手伝ったために心に安らぎを覚えたことは

ないだろうか。隣人の家の歩道に積もった雪をかきのけてあげたために、自分の心のうちに平和があるのを覚えたことはないだろうか。

また、だれかが問題を解決し、人生に新しい未来を開くのを助けたために自分の心に平和がもたらされるのを感じたことはないだろうか。皆様は、「悲しき者を慰め、人を喜ばせ」たであろうか。

罪の意識を覚えた方もあるだろう。また自分の霊にもたらされる騒動や混乱をご存知だろうか。これは精神的また肉体的病いさえも引き起こすのである。このような感情が起こった時いつでもこれをおさめることができるように、慰めの祝福があることをご存知だろうか。罪の意識は不親切な言葉であり、思いやりのない行ないであるかもしれない。またそれはその気持よりももっと深いものかもしれない。罪の意識が生じた時それを解決するまで心に平和を望むことはできないのである。

今、皆様方は友だちや隣人、あるいは神の子供たちに対して、心に不親切な気持があったり、愛がないということはないだろうか。そのような人に対して何か良いことをするようにしなさい。そして苦々しい思いが心から全部消えうせるまでこれを続けなさい。

みなさんは日曜学校のクラスでレッスンを終えた時、本当に生徒の助けとなり、その人の人生に前にも増して明るい希望を与える福音の原則を教えら

れたことがあるだろう。その時の安らかな気持と喜びを思い出してもらいたい。だれかに福音を教え、その人があなたが教えたことを受け入れたために喜びを得たことはないだろうか。福音を教えることは実に感動的な仕事である。

皆様は、福音の知識により、またイエス・キリストの福音の教えを受け入れ、これに一致した生活をするによりもたらされる喜びと安らぎを感じられたことがあるだろうか。神殿で死者のための身代りの儀式を受けることにより心に安らぎを感じられたことはないだろうか。

すなわち、平和の鍵は奉仕である。キリストはこのように言われた。「ここで、あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。」(マタイ23:11)

神権を用いることはすべて、だれかほかの人に対する奉仕であるということに気づいておられるであろうか。神権の義務を果たされる時、いつも心に安らかな良い気持を感じていないだろうか。

平和は奉仕によりもたらされるのである。

主は次のように言われた。「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1:39)

これが奉仕の究極の目的である。神のようになるために、私たちは敵意を

【P. 525へ続く】

---

## 信仰と熱意の人

# ウィルフォード・ウッドラフ

レオン・R・ハートション

---

ウィルフォード・ウッドラフを知るならば、聖霊の導きに従順な心と注意深い耳とを兼ね備え、偉大な信仰に熱意を合わせもった人が教会の会員のためにどれほど多くの影響を及ぼすかを知ることができるであろう。彼は特に主に頼れる強い人になる必要があった。なぜなら、彼は非常に困難な時期に王国を指揮しなければならなかったからである。

ウィルフォード・ウッドラフは幼年の頃、主の力を真心から信頼することを学んだ。彼自身が書いた記録によれば、彼は幾度となく事故や困難な目にあい、そして主の慈悲により助けられている。3歳の時、彼は熱湯のはいた大がまに落ち込んだ。また父親の小屋のはりからすべり落ちて床に顔をたたきつけ、墜落して両腕を折り、牛につき上げられてあやうく死を免れ、馬車から落ちて片足を折り、雄牛に腹をけられ、馬車がひっくり返って積んでいたほし草の下敷きになり、馬が丘を

暴走して馬車共々ひっくり返り、4.5メートルの木の上からまっさかさまに落ちて背中を打ちつけ、100メートル溺れて流されているところを助けられた。また幼い頃、りんごの木の下にはって入りこんでいるところを通りがかりの人に発見されてあやうく凍死を免れ、木を切っている時、左足の甲に斧を打ち込んでけがをし、狂犬病の犬にかまれ、走っている馬からふり落とされて、両足を2カ所ずつ骨折し、両足首を脱臼した。なんとこれはウィルフォードが20歳になる前に起こった事故である。

この後にも、粉ひき車の一番高い所から2度も落ちてあやうく死ぬような目にあったり、暴走する馬に引きずられたり、銃口がちょうど胸のあたりにある時、偶然引き金が引かれたが幸いにも不発だったという事故がある。また、木が胸に倒れかかり胸骨と肋骨を3本折り、左ふとももと腰と腕にひどい打撲傷をうけるという事故にあっ

た。

彼が主の力によって自分が守られていることを早くから知っていたことは疑う余地がない。人生も後半になって彼はこのような事故について考え、次のように述べている。「それゆえ、私は最も険悪な危機に遭遇していても死から救おうと私に手をさし伸べて下さっている驚くべき神のみ力を感じている。今日私がここにあるのはこの見守りのおかげである。」

思慮深い若者だった彼は、常に正しいことをしたいと思っていた。十代の頃のことを次のように記している「現在の私の年代というものは、人生のうちでも最も重要な時期である。なぜなら、概して人の一生と永遠にわたる性格のほとんどがこの時期に形成されるからである。自分の人生を歩みながらさしかかったこの画期的な時期を過ごすにあたって、私は確かに注意深い者とならなければならない。栄えある永遠の生命に続く道を歩んでいけるよう

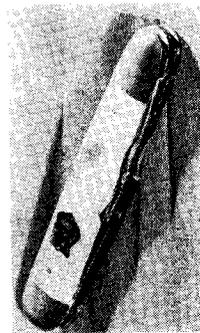
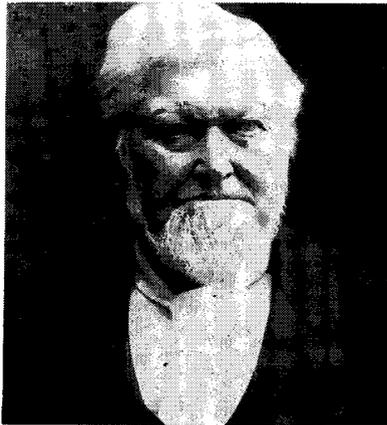


になるために、私には注意力と分別、慎重さと知恵が必要であると思う。」

絶えず導きを求め続けることにより彼はしばしば祈りの中で主を知るにいたったのである。このため、ついに福音を聞く機会に恵まれた時、彼はこれを受け入れるにふさわしくよく準備されていた。

福音を紹介された時の様子をウッドラフは次のように述べている。「パルシィファー長老は祈りによって始めた。彼はひざまずき、望んでいること

をイエス・キリストのみ名によって主に願い求めた。私は彼の祈りの態度と祈りによってもたらされる影響に非常に深い感銘を受けた。主のみたまが私の上にとどまり、彼が神のしもべであることを証したもうた。讚美歌を歌い終わると、彼は1時間半にわたって人々に教えをのべ伝えた。主のみたまが雄々しく彼の上に宿り、モルモン経が確かに神から与えられた書物であることと、予言者ジョセフ・スミス の使命について力強い証をのべた。私は彼が

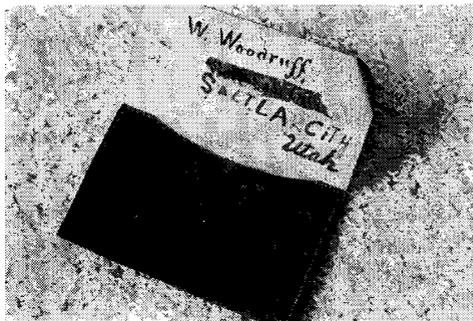


ウッドラフ大管長のポケットナイフ

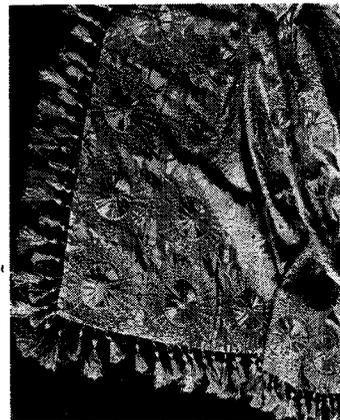
この写真にはウッドラフ大管長の霊性がよく現われている。



ウイフォード・ウッドラフは1893年ソルトレーク神殿を献堂した。これは彼の署名入りの招待状である。



ウッドラフ大管長のさいふ



家で使っていた美しい模様のテーブルクロス



90歳の誕生日にウッドラフ大管長に贈られた金の取っ手のついたつえ

大管長のひげそりカップ

言ったことを全部信じた。みたまがそれが真理であることを証したからである……」

「長老たちはそこにいた会衆全員に今聞いたことを話すことも反対することもできる自由を与えた。私は気がつく立ち上がっていた。2人の長老が話したメッセージが真実であることを証するように主のみたまが私をかりたてたのである。私は隣人や友人たちに対して、宣教師たちに反対しないように熱心に勧めた。なぜなら、彼らは真に神のしもべだったからである。その晩、彼らは私たちにイエス・キリストの純粋な福音をのべ伝えた。私が腰をおろすと、私の兄弟であるアズモンも

ランドへ行き、そこで予言者ジョセフ・スミスに会ったのである。

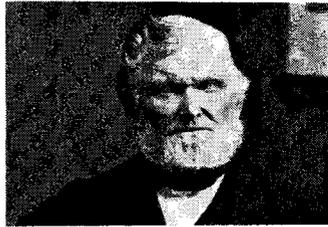
ウッドラフは新しい会員たちと共にカートランドからシオンの陣営へと進んで行った。この期間中にウッドラフは、みたまに「動かされて」教会の歴史上重要な出来事を記し始めたのである。後に、彼はこのことを天よりの指示であったと述べている。

「悪魔は、生まれた日から今日まで特に私の命を奪い去ろうとしてきた。私は悪魔のかっこうのえじきだったかもしれない。たった1つだけ理由が考えられる。すなわち悪魔は、私が末日聖徒イエス・キリスト教会に入ったならば、私がこの教会の歴史を書き、予

言者や使徒たち、それに長老たちの働きと教えの記録を残すであろうということを知っていたからである。私は予言者ジョセフから聞いた説教と教えをほとんど全部記録してきた。また私はブリガム・ヤング大管長やオルソン・ハイド、パーレー・P・プラットやそのほかの人々の説教を多数日記に記してきた。私が初期の時代に記録に力を入れ始めたもう1つの理由は、この時に任命された教会歴史記録者たちがほとんど背教し、記録を持ち去ったからである。」

若きウィルフォードはシオンの陣営に入った後すぐに、宣教師としてアラスカ、テネシー、カナダ、ニューイン

ウッドラフ長老が使徒だった頃の写真



ウィルフォード・ウッドラフが平原を旅する時使徒の杖



立ち上がって同じような証をのべた。そして、彼の証の後、さらに数人続いて証をのべた。」

それから3日後の1833年12月31日、ウッドラフはモルモン経を注意深く読んだ後、バプテスマを受けた。

彼はその時のことを次のように記している。「雪が90センチほど積もった寒い日だった。バプテスマの水は氷と雪がまじっていたが、私は寒いとは感じなかった。」

この後すぐに、ウッドラフはカート

グランドに行き、行く先々でしばしばみたまの導きを経験し、ここに彼の偉大な宣教師としての生涯が始まるのである。伝道地を離れる時のことをウッドラフは次のように記している。「ニューイングランドとカナダで2年半を費やし、聖徒を得た後、私はマサチューセッツ州のボストンから100名ほどの最後の一団と一緒に帰途につき、夕暮れ時にペンシルベニア州のピッツバーグに着いた。私たちはそこにとどまらずに、ミズリー州セントルイスへ向かった。その時、私は出発しようとしている蒸気船を見た。船長のところへ行って、何人くらい乗っているか尋ねた。『350人ですよ』、『あと100人くらい乗せてもらえないだろうか』、『いいですよ』。しかしみたまが私に、『おまえも仲間もその船に乗らないように』とささやいた。私はみたまに『乗せないようにします』と答えた。私はすでに、静かなる細き声について学んでいた。それでその蒸気船には乗らず、次の朝まで待った。蒸気船が出発した後30分もすると船は火をふいた。船にロープはあったが、乗客は陸にたどりつくことはできなかった。夜もふけていて助かった人はいなかった。もし、私が内なる訓戒者の言葉に従っていなかったならば、私はそこにいたであろう。

私はみたまにより支配されていた。私はこのみたまとよく通じ合っていた。それはトランペットの音色でもなく、また雷鳴やいなびかりでもなく、それは細き静かな声であった。」

これはウイルフォードウッドラフの車である。病気のブリガム・ヤングがここから立ち上がり「まさにこの土地である」と言った。

ウッドラフは32歳の時、すなわち、1839年ミズリー州のファーウェストで使徒に聖任された。

多くの教会員はウイルフォード・ウッドラフのことを偉大な宣教師であると思っている。ヒーバー・J・グラントは彼のことを、「おそらく彼〔ウイルフォード・ウッドラフ〕は、私たちが今まで教会で得た改宗者のうち最も偉大な改宗者である」と語った。その頃、彼はすでに2回伝道に出ていたが、彼の最も有名な伝道は英国への伝道で、これは1893年に始まった。

33回目の誕生日にウイルフォード・ウッドラフは英国のハンリーの町で福音をのべ伝えていた。ウッドラフはその地において非常な成功を収めた。主が彼にそこを去って、南へ向かうよう命じられた時、彼は驚いた。彼は文字通り導かれてバーミンガムのすぐ近くにあるジョン・ベンボアの農場に着いた。そこでは、ユナイテッド・ブレズレンとして知られるグループが団結して、主が完全な福音を携えた僕を送って下さるよう祈っていたのである。

ウッドラフ長老はこのグループの中から2人で45人の説教者と160人の人々にバプテスマを施した。福音をのべ伝えたかどでこの宣教師を逮捕するよう遣わされた1人の警官は、ウッドラフ長老の話を聞いた後、教会に加わった。集会の内容を偵察しに来た英国教会の2人の地方役員もウッドラフ長老の手によってバプテスマを受けさせてもらうよう頼んだ。

ウイルフォード・ウッドラフは1840年の1年間に336人を教会に改宗させた。それからウッドラフ長老とそのほかの兄弟たちは予言者ジョセフ・スミスの召しに応じて大勢の改宗者たちを連れて故郷へ帰った。

この伝道が終わった後、彼はノーヴー神殿の建築を助け、聖徒たちがロッ

キー山脈を越えるための準備をした。この間に、彼はその信仰とみたまのささやきに対する鋭い感受性のゆえに非常に霊的な経験をした。

思いつくままにあげてみても、次の霊的経験は、天父がいかにウイルフォード・ウッドラフの身近におられたかがよくわかる。

「私の伝道は啓示のみたまによって行なわれた。私は同じ静かなる細き声によりフォックスアイランドに行くよう告げられた。カートランドでひどい背教が起こっていた時、主のみたまは私に、『同僚を得て、フォックスアイランドへ行け』と言われた。私のフォックスアイランドに対する知識はコロブに対するそれと同じで、全く無に等しいものであった。しかしながら、私はそこへ行き100人にバプテスマを施した。」

かつてひどい嵐の中で迷って、壁をばう盲人のように手探りをしていた時突然明るい光が私たちの回りを照らし湾のがけっぶちにて危険であることを教えられた。その光は私たちが道を見つけるまでずっと私たちと共にあった。途中、私たちが喜んでいたら、再び暗やみとなり雨が降り続いたのである。」

このほかに、夜彼が馬車を止めてその中に寝ていた時、声がして『起きて馬車を動かせ』と言われた。ほんのしばらくの後、つむじ風に巻かれた大木が馬車を止めておいた所へ倒れたのである。

宣教師としてロンドンにいる間、「闇の皇子」に遇って恐ろしい経験をした。「闇の皇子」がまさに私を負かそうとした時、私はイエス・キリストのみ名により天父に助けを求めて祈った。すると、私はひどい苦痛を受けたにもかかわらず、彼を打ち負かす力が出て、彼は私から離れ去った。その後

## ウイルフォード・ウッドラフの略歴

(1807～1898)

年令		
1807	5月1日	コネチカット州ファーミングストンで生まれる。
1821	14	製粉業を営む。
1833	26	バプテスマを受ける。
1834～36	27～29	南部諸州で伝道する。
1837～38	30～31	東部諸州フォックスアイランドで伝道する。
1839	32	使徒に聖任される。
1839～41	32～34	英国で伝道する。
1842	35	「タイムズ・アンド・シーズズ」の管理者となる。
1844～46	37～39	ヨーロッパ伝道部の伝道部長となる。
1848～50	41～43	東部諸州の教会を管理する。
1856	49	教会歴史記録者に任命される。
1877	70	セントジョージ神殿の神殿長になる。
1879	72	インディアンに伝道する。
1887	80	十二使徒評議員会会長として教会の指導者になる。
1888	81	マンタイ神殿を献堂する。
1889	82	大管長に支持される。
1890	83	多妻結婚の疑惑に対する公式の宣言を行なう。
1893	86	ソルトレーク神殿を献堂する。
1896	89	断食日を第1木曜日から第1日曜日に変える。
1898	9月2日	91 サンフランシスコで死去。

白い服を着た3人が私のところへ来て、私と一緒に祈った。すると私のけがはすべて即座にいやされて、苦痛から解放されたのである。」

「セントジョージを出発する2週間前、死人の霊が私のまわりに集まり、なぜ私たちが彼らを贖わないのか知ることがあった。彼らはこう言った、『私たちはあなたたちが享受する政府の基礎を作ったが、決して政府に背くようなことはしなかった。それに、私たちは政府にも神にも忠実であった。』彼らは合衆国が独立宣言をした時の署名者であった。そして、彼らは二日二晩、私を待ったのである。……私はすぐバプテスマフォントに行き、マカリスタ

一兄弟を呼んで独立宣言の時の署名者と、人々の中でもすぐれた50人の人々と、それにきわだっていた100人の人のために身代りのバプテスマを施してくれるように頼んだ。」

ウイルフォード・ウッドラフは決して時間や活力の浪費をしなかった。大管長の職にあった時、彼はサウスウェストに住むインディアンたちに福音を教えた。彼はそのような人々に対して大いなる愛と尊敬の念を抱いていた。当時72歳であった彼は、インディアンの人々と共にいることを好み、荒野にあっては狩りや魚つりを好んだ。偉大な宣教師であり神の使者であるウッドラフはまた、偉大な探険家でもあっ

た。彼は合衆国西部で魚つりをするのに蚊ばりを試みた最初の人である。

大管長であった時も彼は続けて、聖徒たちを正しく導くことができるように主の導きを求めて自らの心を打ち明けた。1890年9月25日、ウッドラフ大管長は多妻結婚は停止されるのが主のみこころであるという有名な「公式の宣言」を世にあらわした。

彼の教えと導きを施す業も終わりに近づき、教会の敵が次第に遠のいて行った時、彼はソルトレーク神殿を献堂し、生存中にユタが州に昇格するのを見た。これは聖徒たちが自らの手で地方市民の指導者を選出することができるということを意味したのである。

ウッドラフ大管長はサンフランシスコで91歳の生涯を閉じた。彼は同胞と主によく仕え、福音をのべ伝えるために175,000マイル以上も旅をし、2,000人の人々にバプテスマを施して教会に入れ、62年間にわたって教会歴史の7,000ページにも及ぶ記録を書いたのである。ウッドラフは宣教師であり、粉屋、印刷屋、農夫、開拓者、植民者政治家であり、主イエス・キリストの使徒であり、予言者であった。もし、彼の生涯から何か学ぶものがあるとするれば、それは、偉大な経験は強い信仰に熱意を加えることから生じるという永遠に変わらぬ方程式であろう。

この方程式は私たち一人一人にあてはまるのである。すなわち、私たちが教会でいろいろなことを行なう時に、すばらしい経験をすると同じように、私たちの祈りに対する答えをも得ることができるのである。もし、自分自身の人生においてみたまの証を得るのに飢えかわいていたなら、私たちはこれを受け入れるに必要な努力をしなければならぬ。あなたがたは進んでこれを行なうだろうか。

# 平 和

## 【P.519より続く】

なくし、どん欲と利己心を捨てなければならぬ。私たちは他の人々に奉仕する際、全力をあげて努力しなければならない。主は次のように言われた。「……正しき業を行なう者はよき報いを得、すなわちこの世に在りては平和を得、次の世に在りては永遠の生命を得ん。」(教義と聖約59：23)

ジョセフ・スミスは苦難に直面した時、平和を維持できる最も良き模範であった。ジョセフ・スミスはそれまで37回も逮捕されては放免されていたが今度は戻れないということを知っていた。ノーヴーからカーセージへ行く途中、ジョセフ・スミスは次のように言った。「私はほふり場へ引かるる子羊の如く行く。されど、わが心は夏の朝の如く穏やかなり。わが良心は神に對しましたすべての人に対しいささかの咎めもなし。われは罪なくして死なん。而して、世の人々は彼は残忍なる者の手に殺されたりと言わん。」(教会歴史記録第6巻P.630)

カーセージでジョセフは妻のエマに次のように書き送った。「私は正当であり、なすべきことのうちで最も良いことをしたことを知っているが、私は私の行く末に身を任せている。子供た

ちと私の安否を尋ねる人たちによろしく。神の祝福があるように。」(「教会歴史記録」第6巻P.605)

イザヤは次のように言っている。「正義は平和を生じ、正義の結ぶ実はとこしえの平安と信頼である。」(イザヤ32：17) これはあなたが神のみこころと一致した生活をしているという確信となる。

最近、聖地を旅行した時案内してくれたガイドは、ヨルダンアラブ人でサリ・ラバデという名のギリシャ正カトリック教会の会員だった。彼は私たちに「ハバノ・サロ・マリケン」というアラビアの短い歌で「私たちはあなたに平和をもたらします」という意味の歌を教えてくれた。

サリ、我々もあなたに、そして世界中の人々に、「私たちはあなたがたに平和をもたらす」と言う。我々はあなたの方に、キリストが、「……わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。……」(ヨハネ14：27)と言われた時意味された平安、福音の平安を与えるであろう。

各人が心に安らぎを得るならば、家庭に平和があるであろう。各家庭に平和があれば、国に平和がある。国に平

和があれば、世界に平和がある。

「地に平和があるように、平和が私から始められるように」という歌を歌う時、ただ単に歌うのではなく、この歌に意味をもたせ、これを私の目的、あなたの目的として歌おうではないか。

救い主が再び来たりたもう時、我々が他の人々に奉仕するという主の教えを受け入れ、これに従い、敵をなくし不義なるものを捨てた時にのみ、主は平安をもたらされるのである。

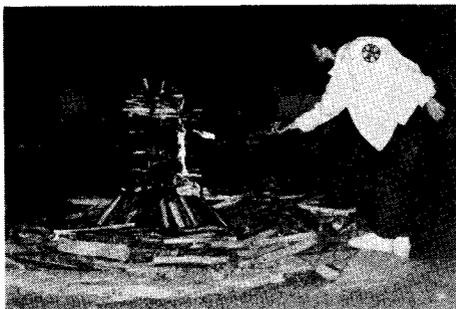
ヨハネが見た、「中空を飛び、……地に住む者に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえた」(黙示14：6) 天使はすでに来ている。地上に建てられたイエス・キリストの福音は二度とこの地上から取り去られることはないのである。

主の王国はすでにこの地上にあり、主の再降臨に備えて急速に成長している。確かに主は来たりたもうて、その時喜んで主の教えに従っている人のみが祝福を受けるであろう。これは主のみ業であり、み国である。世に平和と永遠の生命をもたらす唯一の道である。これらのことをイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

## 第1回YWキャンプ開かる

# 自然の中で友だちを見つけよう

大阪ステーク部



点火します



パチパチ燃えるファイヤーと共にみんなの顔もかがやく



不慣れな手つきで食事の準備

このキャンププログラムを日本に紹介し、私たちを指導して下さった岡崎前伝道部長夫人に心から感謝しています。

また、このすばらしいプログラムが全日本の姉妹たちに伝わることを切に望んでいます。

神様のみ業である雄大な自然にふれ、神様が生きてましますことをさらに強く感じました。

「自然の中で友だちを見つけよう」

このテーマのもとに、9月23日から1泊2日のYWキャンプが開かれました。

大阪ステーク部の最初のMIAプログラムでしたが、その集會中いつも神様のみたまを自然の中で感じる事ができました。

また清水伝道部長夫人を迎えてすばらしいお話を聞き、自然に対する新しい知識を得、その偉大さ、必要性をよく知りました。

12才以上の78名の姉妹が13人の同行神権者に見守られ、ある人はイヤリングの資格条件を満たすため、ある人はマウンティニアの資格条件を満たすために、それぞれ自慢のウデを発揮しました。

日ごろ、ガスや電気などの文化生活に慣れている私たちでしたが、あるグループは慣れない手つきで鍋を扱ったためにおかずをこぼしてしまい、一つ一つ拾いながら食物のありがたさを感じたり、またあるグループはコゲのないご飯を一度も食べたことがないとか……本当に楽しい光景が展開されました。おりしも台風接近の予報が出ていたにもかかわらず、神様は私たちを祝福して下さい、両日とも良い天候に恵まれました。

風に揺れる木々を見て神様に対する従順さをよく知りました。

最後の証会で、多くの姉妹たちの力強い証を聞き、これから各ワールド部、支部において一生懸命やろうという気持ちをさらに強く抱くことができました。



全員集合 / 若さみなぎる姉妹たち

# 主の時の到来

日本中央伝道部の発展のニュースをお届けします。このすばらしい活動、会員の驚くべきエネルギーを深く考えてみると、「まさに主の時来る」感を強くするに違いないと信じます。



(1) 9月12日(火)

に大阪地方部大会がペンソン長老管理のもとに開かれ大阪地方部はステーキ部へと発展的に再組織された。

このステーキ部誕生は、日本中央伝道部の活動の成果であると同時に、これからの伝道部内の全会員にとって、活動と信仰生活の目標となり、理想の像となっていくに違いない。ステーキ部の発展を祈るものである。

(2) 新伝道部役員として牧瀬十二郎第1副、上野山研次郎第2副伝道部長、西谷宗祐幹部書記が召された。なお鈴木正三前第1副伝道部長はステーキ部祝福師として召された。

(3) 名古屋支部教会堂完成。名古屋支部支部長会の働き、会員の犠牲には目を見張るものがあった。次いで金沢支部の建築が行なわれる予定である。

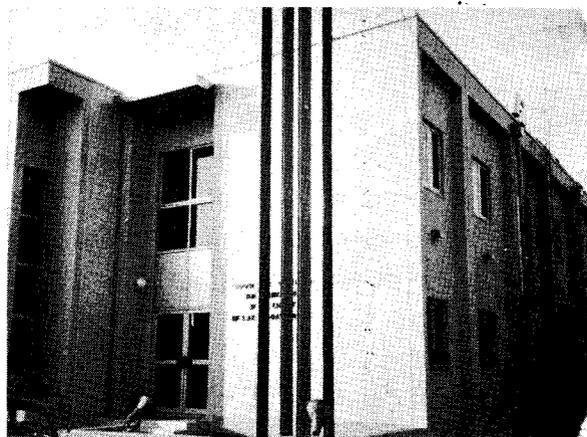
(4) 豊橋、和歌山に次いで徳島支部も独立。付属支部の短期間内の独立は、会員の強い信仰と犠牲、主の恵みの大きさを感じさせる。ひき続き富山、福井、倉敷の独立も予定され

ている。

(5) さらに明石支部（姫路支部の付属）津支部（名古屋支部の付属）が開設され、柳田兄弟（明石）、亀井兄弟（津）が支部長に任命された。

(6) 最後に清水伝道部長の計画により、当伝道部で伝道した宣教師による「帰還宣教師大会」が開かれ、それぞれ現在も指導者として力強く福音に生きていることを確認しあい喜びのうちに散会した。

この故に汝らが大きいなる栄えの冠を受くべき日は来るなり。而してその時は未だ来らずといえども近きにあり。（教義と聖約58：4）主なるわれは、忠実なる者に約束して決して欺く筈なし。（教義と聖約63：6）



上、完成された名古屋支部  
左から、豊橋支部、和歌山支部、徳島支部

# 東京ステーキ部1972年第3四半期大会

今年になって3回目のステーキ部大会が、十二使徒評議員会会員エズラ・タフト・ベンソン長老の管理のもとに、江戸川区小岩の愛国学園講堂で開催された。

今大会では特に独立支部、付属支部の増設に伴い、若干の人事変更が行なわれた。新役員は次の通りである。

高等評議員 福田 真(前高等評議員代理)  
 高等評議員 石坂 晃一(前高等評議員代理)  
 高等評議員代理 松下 泰洋(前東京第2ワード部監督)  
 高等評議員代理 高本 啓一(前東京第3ワード部第1副監督)



高橋 実監督



岩波信夫監督

高等評議員代理 寺坂 昇(前東京第4ワード部第1副監督)  
 東京第2ワード部監督 高橋 実(前高等評議員)  
 東京第5ワード部監督 岩波 信夫(前高等評議員代理)  
 解任(現国立付属支部支部長) 斎藤 正三

(前高等評議員)

ハンディー兄弟姉妹



ハーディング兄弟姉妹



なお今まで建築部監督として極東の聖徒と歩みを共にしてこれられたマービン・S・ハーディング長老が解任され、新たにグレン・R・ハンディー長老が任命された。

## 証

### 東京ステーキ部第4ワード部 児玉 信一

私が末日聖徒イエス・キリスト教会に導かれましてもう1年になります。今では一段と真理を深く理解しております。ひとえに監督はじめ指導者の導きと感謝致しております。

昨年初めてモルモン経を知り、3週間たらずで通読しました時は、まさに生命を賭けての研究でした。神に絶えず祈り直感により真実であることを悟りました。イテル書を読んだ時には胸の中が熱くなり、感激して涙が出たほどでした。このようにたった1冊のモルモン経により教会員となる決断を迫られたのは、エホバの証人の組織の排斥問題があったからです。それまでは、エホバの証人の組織こそノアの方舟だと思っていました。それと正反対であるモルモン経の教えに感激したのは、まさに主の導き以外の何物でもないことを心から証致します。

9月10日は私にとって忘れることのできない日となりました。ステーキ部大会でメルケゼデク神権を受け、長老の職に按手聖任されたからです。天と地とを結ぶこの大神権なくしては、日の光栄の王国に入ることはできません。一家の主人として、家族を導く者としてなくてはならない神権です。テモテ第一の手紙5章8節に「人もしその親族、殊に己が家族

を顧みずば、信仰を棄てたる者にて不信者よりも更に悪しきなり」と述べられています。

また私が兄弟姉妹と接する時や、いまだ福音を知らない人に宣べ伝える時には、いつも教義と聖約121章45、46節を思い出して行動する覚悟です。

この大神権を授かる前に、私は祝福師の渡部正雄兄弟よりすばらしい祝福をいただき、感激致しております。

私は寺坂兄弟と共にホーム・ティーチングをした晩、今年になって初めて夢をみました。それは小高い丘と村のある自然の風景ですが、あまりにもその色彩が強烈なのに驚きました。たぶんモルモン経の中にあるクモラの丘を見たのだと思います。

モルモン経が永遠の福音であり、天の父なる神様と御子イエス・キリストは真に生きておられ、イエス・キリストは私たち人類の贖い主であることを証します。また末日聖徒イエス・キリスト教会が予言者ジョセフ・スミスによってこの神権時代に回復された神の真の教会であることを証致します。

神様の豊かな祝福が皆様の上にありますように。イエス・キリストのみ名により証致します。アーメン。

# 福音なしで生きられない世の中が すでにそこに来ている

鹿児島支部 牧 哲 也

かつての私は一生懸命何か生きがいを求めていた。娯楽ごとや酒飲みの遊びなど何か激しいことに夢中になっている時は、楽しいと思ったり、愉快だと感じたりした。時には人生をすばらしいものと思い、「ブラボー」の声をはりあげたこともあった。しかし、それは時々そう思うだけで気持が高揚する時間はそんなに長くはなく、たいていは憂うつな気分につつまれていた。ひとりで、じっと自分を見つめているといつもそこにはみじめな、いやしい心の私がいた。怠惰のかたまりのような男が暗い表情を見せて笑っていた。全体として人生は灰色であり、苦悩に満ちたものであった。何か激しく動いた時に、しばらくの間喜びを味わうことができたように思ったけれども、あとにはもっと深いむなしさがやってきた。また、その喜びそのものも、何か暗い影を伴ったようなものが多かった。

ノーベル賞作家の川端康成氏が自殺して世に大きな衝撃を与えたが、氏の愛弟子と言われた三島由起夫氏が割腹自殺したのは一昨年のものであった。そのとき私はすでにバプテスマを受けていたが、もし氏が主の完全な福音を知っていたらつまりイエス・キリストを固く信仰していたらあのような行動は決してとらなかつただろうと考えたことを今も覚えている。なぜこのような知性においてよりすぐりの天才をもってしても、人生の本当のところはわからないのであろうか。なぜ、自殺によってこの現世の生活を否定しなければならないのだろうか。実に不思議な気がするけれども、こんな例は枚挙にいとまのないくらい数多いのである。

正しい人生の姿がわかっていたら自殺するはずがない。明るい世界に住んでいたなら、その明るい世界から急いで立ち去ろうとするであろうか。私は川端氏の住んでいた世界が明るい光の世界ではなく「暗闇の世界」であったと思わざるを得ない。氏の作品の主要なテーマが「死」であったとはよく言われることだが、人の死の意味は何か、それはつまり人の「生」の意味を問うことになるし、また人間とは何ぞやということにもなるのだが、このことはいくら自分の頭で考えてもその核心のところはつかめるものではない。人は核心へ到達する手前のところで、またはそのまわりのところでいろいろ思いめぐらすことはできる。局部的に鋭くつきつめていって、そこに美の世界を作り上げることはできるだろう。しかしいくら努めても核心をきわめることはできない。なぜな

ら、この真理は信仰の領域に属することなのだから、信仰を試されて始めて知ることを許される世界なのだと思う。

従って私たちのとり得る道は、その真理を教え説く権能を持つ人の言葉に聞き従うほかにない。その権能は私たち人類の「救い主」であり「贖い主」であるイエス・キリストに源を発していなければならない。なぜならば、イエス・キリストをおいて、人類を救うすなわち至上の喜びと平安を与えたもう方はいないからである。

川端氏の死が報ぜられた時、私の息子が尋ねた。「ノーベル賞をもらったというのに生活が苦しかったの。」自殺と言えば、生活苦すなわち経済的貧窮が理由といった子供らしい発想がいかにもおかしかった。しかし世の中には、金持ちだから、社会的名士だから、偉大な芸術家だから、それでもってその人が幸福な人に違いないと決めつけてしまうようなところがある。ほかにどんなすぐれた点や偉大な才能を持っていても、またお金や地位や名誉があっても、イエス・キリストの福音を知らず、正しい信仰の喜びを知らないでは、人は本当の幸福を得ることができない。そのほかのものでは幸福の一時的な錯覚があるのみである。そしてそれはいつの日にかもろくもくずれ去っていく根なし草のようなものである。

私はおよそ20年間さ迷い歩いた末に、やっとこの真理の教会にたどりつくことができた。私は長い間、迷いと悩みの霧の中を手さぐりで歩き回り、何度もつまづいた。しかしあくまで希望を捨てなかった。何かがないればおかし、いつの日か絶対のものに出くわすに違いないと感じていた。そしてついに「モルモン経」に遭遇した。この出会いに私は神の導きを、私個人に向けられた神の深い愛を感じる。今私の心にはたえずやすらぎと真の平安がある。学ぶべきこと、働いて仕上げなければならないことがたくさんある。毎日毎日が生きがいに満ちた時間であり、静かな喜びに包まれた時間である。私はこのようにもすばらしい人生をお与え下さった神の愛に深々と頭を垂れざるを得ない。



牧哲也兄弟の家族

